

日本地質学会 *News*

Vol.25 No.5 May 2022



一般社団法人日本地質学会

The Geological Society of Japan

理事

任期：2020年5月23日～2022年総会

会長（代表理事）	磯崎行雄（東京大学）	笠間友博（箱根ジオミュージアム）
		亀尾浩司（千葉大学）
副会長	佐々木 和彦（応用地質（株））	亀田 純（北海道大学）
	平田大二（神奈川県立生命の星・地球博）	川端清司（大阪市立自然史博）
常務理事	中澤 努（産業技術総合研究所）	北村有迅（鹿児島大学）
副常務理事	岡田 誠（茨城大学）	清川昌一（九州大学）
執行理事	ウォリス サイモン（東京大学）	後藤和久（東京大学）
	緒方信一（中央開発（株））	小松原純子（産総研）
	大藤 茂（富山大学）	齋藤 眞（産総研）
	狩野彰宏（東京大学）	杉田律子（科学警察研）
	亀高正男（（株）ダイヤコンサルタント）	竹下 徹（北海道大学）
	小宮 剛（東京大学）	内藤一樹（産総研）
	坂口有人（山口大学）	納谷友規（産総研）
	高嶋礼詩（東北大学）	奈良正和（高知大学）
	辻森 樹（東北大学）	西 弘嗣（東北大学）
	星 博幸（愛知教育大）	根本直樹（弘前大学）
	松田達生（工学気象研究所）	野田 篤（産総研）
	矢部 淳（国立科学博）	早坂康隆（広島大学）
理事	上松佐知子（筑波大学）	藤井正博（応用地質（株））
	芦 寿一郎（東京大学）	細矢卓志（中央開発（株））
	天野一男（東京大学）	保柳康一（信州大学）
	安藤寿男（茨城大学）	松田博貴（熊本大学）
	内野隆之（産総研）	三田村宗樹（大阪市大学）
	尾上哲治（九州大学）	道林克禎（名古屋大学）
		矢鳥道子（東京都立大学）
		山口飛鳥（東京大学大気海洋研）

監事

任期：2020年5月23日～2024年総会

岩部良子（応用地質（株））
山本正司（山本司法書士事務所）



一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル

電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156（振替口座 00140-8-28067）

e-mail: main@geosociety.jp ホームページ <http://geosociety.jp>

日本地質学会 *News*

Vol.25 No.5 May 2022

The Geological Society of Japan News

一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル 6F

編集委員長 小宮 剛

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156

main@geosociety.jp (庶務一般)

journal@geosociety.jp (編集)

http://www.geosociety.jp

Contents

2020東京・早稲田大会情報……2

シンポジウム概要/巡検コース紹介/ダイバーシティ認定ロゴ「ECS (Early Career Scientist)・EDI (Equality, Diversity and Inclusion)」導入の取り組みについて/

案内……8

第39回歴史地震研究会 (高槻大会)

公募……8

東北大学大学院理学研究科地学専攻・助教公募/東京大学地震研究所2023年度国際室外国人客員教員の推薦公募/東京大学地震研究所2023年度特定機器利用の公募/EIG CONCERT-Japan 第9回共同研究課題「原子レベルでの材料設計」公募

各賞・研究助成……9

第17回「科学の芽」賞応募

紹介……9

熊本地震の痕跡からの学び 熊本大学くまもと水環境・減災研究教育センター減災型社会システム部門 編 (斎藤 眞)

CALENDAR……10

博物館で地学を学ぼう! (5) ……11

横須賀市自然・人文博物館:三浦半島のフィールドワークの拠点 (柴田健一郎)

第2回JABEEオンラインシンポジウム『昔と違う イマドキのフィールド教育』開催報告……13

表紙紹介……14

第13回惑星地球フォトコンテスト:優秀賞「恐怖の石段」(高木 嶺)

地質学雑誌:新しい論文が公開されています……15

支部コーナー……16

中部支部2022年支部年会開催のお知らせ

院生コーナー……17

研究室紹介:東北大学災害科学国際研究所災害評価・低減研究部門(菅原研究室)(平野史佳)

印刷・製本:日本印刷株式会社 東京都豊島区東池袋4-41-24

一般社団法人日本地質学会第14回総会開催について……18

学会記事……19

2021年度第8回執行理事会議事録

2021年度第9回執行理事会議事録

2021年度第10回執行理事会議事録

訃報……24

学会事務局は現在も出勤日数・人数を調整しながら部分的テレワークを導入しております。営業時間は通常通り、電話対応も再開しておりますが、事務局へのご連絡・お問い合わせはできるだけメールでお送りください。ご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。

2022東京・早稲田大会シンポジウム概要

※タイトル(和英)、世話人氏名・所属(和英)、概要を示します。*印は代表世話人(連絡責任者)です。
※発表申込については、News誌4月号p. (4)をご確認下さい。

シンポジウム

S1. 関東の地質：露頭から大深度地下まで (Geology of the Kanto Plain – From outcrops to deep underground)

世話人：高木秀雄* (早稲田大；hideo@waseda.jp)、向山栄 (国際航業(株))、笠間友博 (箱根ジオパーク推進協議会)、加藤 潔 (駒沢大学)

Convener: Hideo Takagi (Waseda Univ.), Sakae Mukoyama (KOKUSAI KOGYO Co.), Tomohiro Kasama (Hakone Geopark Promotion Council), Kiyoshi Kato (Komazawa Univ.)

趣旨：関東平野はプレート三重会合点の影響を受けた特異な前弧海盆に形成された日本最大の平野である。時間的空間的に様々な視点から、その形成過程や地質分布などの特徴を議論し、全体像を把握することを目的とする。

講演予定：

安藤寿男 (茨城大学)：白亜紀古日本陸弧-海溝系の連続性と前弧堆積盆の地質分布からみた関東地域の位置付け

高木秀雄 (早稲田大学)：関東平野の地下における中央構造線の延長

高橋雅紀 (産総研)：日本列島の第四紀東西圧縮の原因と房総前弧海盆の急激な隆起テクトニクス

鈴木毅彦 (東京都立大学)：上総層群とテフラからみた関東における海域から陸域への地形変化過程

田村糸子 (中央大学)：南関東における上総層群下部の指標テフラとその意義-2.5Maのざくろ石テフラを中心に-

佐藤比呂志 (東大地震研)・阿部 進・松原 誠・蔵下英司・石山達也：関東地域の地殻・マントル構造の特徴

中山俊雄 (東京都土木技術支援・人材育成センター)：東京の地盤と応用地質的課題

S2. 人新世における地質学：年代境界・物質境界研究のフロンティア (Geology in the Anthropocene: Frontiers in boundary studies on age and material)

世話人：川幡穂高* (東京大 大気海洋研；kawahata@aori.u-tokyo.ac.jp)、磯崎行雄 (東京大学)

Convener: Hodaka Kawahata* (Univ. of Tokyo), Yukio Isozaki (Univ. of Tokyo)

趣旨：地質学は、地球を構成する岩石などの固体物質の性質解明や誕生以来現在までの地球が変遷史を研究する分野を含む。対象となる自然(岩石圏や生物圏)は極めて複雑な物質や内部構造を持つが、異なる事象の間の「境界」の把握が複雑な現象の理解の端緒となることが多い。地質学は物質境界(岩石・鉱物の接触面、不整合、断層etc.)、時間境界(地質年代・化石帯境界etc.)、さらに抽象概念としての境界(相転移・物性境界、生物地理区境界etc.)など多様な境界の認定とその意味を考察してきた学問分野である。一方、現代において気候変動の重要性は世界共通認識となり(2015年「パリ協定」など)、特に人工物の総重量が地球生物の総量を凌駕した「人新世」はどのような境界で定義されるのだろうか。私たち地質学者はどう考え、行動すべきなのかという研究方向性を見出すために、「境界とは何か?」という古典的だが、極めて本質的な問題に注目し、現代的視点から次世代研究の方向性を探る契機とすべく中堅・若手中心のキックオフ・シンポジウムを企画する。主に1)地質学的視点から見た現代の位置付け、2)地質学における「境界」問題再考、3)人新世の地質年代単位として妥当性、4)現代・将来社会への地質学の貢献の4点について議論する。

発表予定：

Part 1：年代境界のフロンティア

川幡穂高(東京大)、西 弘嗣(福井県立大)、黒柳あずみ(東北大)、尾上哲治(九州大)、斎藤誠史(東京大)

Part 2：物質境界研究のフロンティア

磯崎行雄(東京大)、片山郁夫(広島大)、辻森 樹(東北大)、澤木祐介(東京大)、宇野正起(東北大)

Part 3：さて、人新世で地質学者は何を考える?

齋藤文紀(島根大)、岡田 誠(茨城大)、安原盛明(香港大)、後藤和久(東京大)、益田晴恵(大阪公大)、川幡穂高(東京大)、磯崎行雄(東京大)

日本地質学会第129年学術大会(2022東京・早稲田大会：9/4-6, 9/10-11)

演題登録・要旨投稿 6/29(水) 18:00

ランチョン・夜間小集会申込 6/29(水)

大会参加・巡検申込 8/10(水) 18:00

ジュニアセッション参加申込 8/1(月)

詳しくは、ニュース誌4月号または、大会HPをご参照ください。 <https://confit.atlas.jp/geosocjp129>

第129年学術大会（2022東京・早稲田）巡検コース紹介

巡検申込：8月10日（水）

申し込みは大会HPから（6月下旬より申込を開始します）

- 1) 会員・非会員問わずお申込頂けます。
- 2) 実施日程が異なる場合、複数の巡検コースへの申込を行うことができます。
- 3) 申込人数が最小催行人員に達しなかったコースは中止になります。
- 4) 本学会ならびに大会実行委員会は巡検参加者に対し、巡検中に発生する病気、事故、傷害、死亡等に対する責任・補償を一切負いません。これらについては、巡検費用に含まれる保険（国内旅行傷害保険団体型）の範囲でのみまかなわれます。
- 5) 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関わる学会の対応指針（本誌p.6）を事前にご確認ください。
- 6) 集合・解散の場所、時刻等に変更することがあります。大会期間中は会場内および大会サイトの掲示板等案内に注意して下さい。また、案内者から直接ご連絡することもあります。
- 7) 中学生以下が巡検に参加する場合は、必ず保護者同伴でお申し込み下さい。なお、バスや徒歩での移動、露頭観察などに際して介助が必要な方への対応は準備しておりません。巡検中いかなる介助もできませんのでご了承ください。
- 8) 各コースの巡検案内書を大会までにWEB上で公開します。巡検参加者には、各コースの案内書のコピーを巡検当日に配布します。案内書の冊子体およびCD-ROMは作成しません。
- 9) 実施後、大会報告記事（ニュース誌11月号を予定）において参加者氏名を掲載させていただきます。あらかじめご了承ください。
- 10) 申込締切後の変更・取消は学会事務局（東京）にe-mailにてご連絡下さい。取消料はコースによって異なります（ニュース4月号予告記事p. (6) 参照）。

コース一覧表

	巡検名	日程	備考
A	チバニアンGSSPサイトと陸化した前弧海盆上総層群の層序	9/7（水）日帰り	
B	房総半島東部、上総層群下部の海底地すべりと前弧テクトニクス	9/7（水）日帰り	
C	三浦半島の上総層群中～下部の層序と化学合成化石群集	9/7（水）日帰り	
D	関東山地東縁部の御荷鉾緑色岩類と北部秩父帯柏木ユニットの海洋性岩石およびクリッペ説の検証	9/7（水）日帰り	
E	御坂・巨摩山地の黒鉍鉍床—古伊豆弧の衝突と衝上の指標として	9/7（水）-8（木）	1泊2日
F	千葉県東部、銚子周辺地域の鮮新—更新世テフラと銚子ジオパーク	9/7（水）日帰り	
G	ジオパーク秩父のジオの多様性	9/7（水）日帰り	アウトリーチ
H	下仁田ジオパークみどころめぐり—多様な地質現象が生み出した下仁田の文化—	9/7（水）日帰り	
I	伊豆大島火山—玄武岩質火山でみる噴火史とジオパーク—	9/2（金）-3（土）	プレ、1泊2日

企画：日本地質学会、旅行取扱：JTB

Aコース チバニアンGSSPサイトと陸化した前弧海盆上総層群の層序

巡検コース：東京駅→アクアライン→富津市岩本→粟又の滝→養老溪谷温泉街（昼食、トイレ）→チバニアンGSSPサイト→アクアライン→東京駅

主な見学対象：[1] 黒滝不整合 黒滝層/安房層群安野層の不整合境界 [2] 粟又の滝 上総層群黄和田層 深海盆堆積層、[3] 養老溪谷温泉街 上総層群太田代層～梅ヶ瀬層 深海盆堆積層 砂岩泥岩互層 タービダイト層 [4] チバニアンGSSPサイト 上総層群国本層 大陸斜面上の塊状泥岩層

日 程：9月7日（水）（日帰り）

定 員（最少催行人数）：40（28）

案内者：岡田 誠（茨城大）・羽田裕貴（産総研）

参加費：6,500円（昼食代込み）

参照地図（1/2.5万）：鬼泪山、大多喜

集合・解散：東京駅8:00集合、18:00解散

その他：

・貸切バス利用予定

Bコース 房総半島東部、上総層群下部の海底地すべりと前弧テクトニクス

巡検コース：8:00 JR千葉駅中央東口集合→千葉東金道路→野呂PAでトイレ休憩→圏央道経由→市原鶴舞IC→御宿町田尻海岸 [1] 見学→勝浦市川津海岸 [2] 見学→昼食→いすみ市大原 [3] 見学→大多喜町川畑 [4] 見学→16:00出発→市原鶴舞IC→18:00千葉駅解散

主な見学対象：[1] 勝浦層に発達する正断層と逆断層 [2] 勝浦層に発達する正断層と逆断層 [3] 大原層の海底地すべり堆積物 [4] 黄和田層の海底地すべり堆積物

日程：9月7日（水）（日帰り）

定員（最少催行人数）：15（12）

案内者：宇都宮正志（産総研）・大坪 誠（産総研）

参加費：12,000円

参照地図（1/2.5万）：御宿，上総大原

集合・解散：JR千葉駅8:00集合，18:00解散

その他：

- ・潮位と天候により変更の可能性があります。
- ・ルートの中に急な上りと下り，ぬかるみがあります。
- ・昼食は各自ご用意ください。

Cコース 三浦半島の上総層群中一下部の層序と化学合成化石群集

巡検コース：[1] 栄区上郷町 瀬上市民の森～磯子区氷取沢町 氷取沢市民の森→ [2] 栄区上郷町 瀬上市民の森入口→ [3] 鎌倉市二階堂 鎌倉天園→ [4] 鎌倉市二階堂 天園ハイキングコース

主な見学対象：[1] 上総層群野島層上部，大船層，小柴層下部とテフラ鍵層 [2] 小柴層下部の化学合成化石群集 [3] 浦郷層の化学合成化石群集 [4] 浦郷層中部とテフラ鍵層

日程：9月7日（水）（日帰り）

定員（最少催行人数）：15（10）

案内者：野崎 篤（平塚市博）

参加費：1,000円

参照地図（1/2.5万）：横浜西部，戸塚

集合・解散：JR港南台駅集合，JR鎌倉駅解散

その他：

- ・健脚向け
- ・ルートの中に急な上り下り，ぬかるみがあります
- ・昼食は各自ご用意下さい。
- ・巡検中の路線バス費用（620円程度）は各自でお支払いください。

Dコース 関東山地東縁部の御荷鉾緑色岩類と北部秩父帯柏木ユニットの海洋性岩石およびクリッペ説の検証

巡検コース：コース：9:00 越生駅西口（東武越生線）→ [1] 毛呂山町宿谷→ [2] 毛呂山町阿諏訪→ [3] 越生町上野（虚空蔵尊）→ [4] 越生町堂山→ [5] 毛呂山町滝ノ入→ [6] 越生町越生東→17:00 越生駅解散

主な見学対象：[1] 柏木ユニットの玄武岩類とチャート [2] 御荷鉾緑色岩類と柏木ユニットのトラバース1 [3] 御荷鉾緑色岩類と柏木ユニットのトラバース2（大高取山クリッペの検証） [4] 御荷鉾緑色岩類の変成玄武岩類と変成チャート（堂山クリッペの検証） [5] 御荷鉾緑色岩類中の蛇紋岩 [6] 三波川変成岩に伴う蛇紋岩

日程：9月7日（水）（日帰り）

定員（最少催行人数）：15（10）

案内者：原 英俊（産総研）・富永紘平（つくば市ジオパーク室）

参加費：10,000円

参照地図（1/2.5万）：越生，飯能

集合・解散：東武鉄道越生駅西口9：00集合，越生駅17：00解散

その他：

- ・昼食は各自ご用意下さい。

Eコース 御坂・巨摩山地の黒鉾鉾床—古伊豆弧の衝突と衝上の指標として

巡検コース：1日目：9:30 甲府駅北口集合→10:40 [1] 身延町根子公民館→11:40[2a,b] 道の駅しもべ（下部農村文化公園），昼食→13:10 [3] 身延町北川→14:20 [4] 身延町丸滝→15:50 [5] 大柳川溪谷→17:50宿泊地（早川町大原野），2日目 9:00→9:10 [6] 早川町茂倉→（昼食）→13:00 [7] 韮崎市円野町 →16:30甲府駅 解散

主な見学対象：[1] 西八代層群中の黒鉾鉾床，万福鉾床 [2] 道の駅しもべ露頭a. 西八代層群古関川層玄武岩質水冷破碎岩b. 西八代層群常葉層勝坂泥岩タービダイト [3] 西八代層群古関川層の玄武岩枕状溶岩 [4] 身延層丸滝礫岩の海溝充填礫岩 [5] 巨摩層群中の再堆積性火山砕屑岩 [6] 巨摩層群中の黒鉾鉾床（石膏鉾床），茂倉鉾床 [7] 巨摩層群中の黒鉾鉾床，御座石鉾床

日程：9月7日（水）～8日（木）（1泊2日）

定員（最少催行人数）：15（10）案内者：浦辺徹郎（元東京大学）・伊藤谷生（静岡大学防災総合センター）

参加費：32,000～34,000円程度（宿泊費，2日目昼食代込み）

参照地図（1/2.5万）：都留，切石，見延，鯉沢，新倉，鳳凰山

集合・解散：JR甲府駅北口9:30集合，甲府駅16:30解散（翌日）

その他：

- ・ルートの中に急な上りと下り，階段，および，一部ヤブこぎが必要な場所があります。
- ・途中，バスでは通過できないところがあるので，移動にはジャンボタクシーを使用予定です。

- ・初日の昼食は各自ご用意ください。
- ・宿泊の際は、1部屋2名の相部屋となる予定です。

Fコース 千葉県東部、銚子周辺地域の鮮新-更新世テフラと銚子ジオパーク

巡検コース：10：00 JR銚子駅集合⇒ [1] 千葉科学大東⇒ [2] 屏風ヶ浦ジオサイト⇒ [3] 地球が丸く見える丘展望台⇒ 犬吠埼（昼食）⇒ [4] 大谷津の切通し⇒ [5] 高田川ジオサイト⇒ [6] 岡野台町の台地基部の切通し⇒ [7] 銚子ジオパークミュージアム⇒ [8] 飯岡小学校東⇒ 16：30 JR飯岡駅解散

主な見学対象：[1] 犬吠層群名洗層下部の指標テフラ (In1) [2] 屏風ヶ浦ジオサイト：名洗層下部～中部の指標テフラ (In3～In11:UN-MD2, 谷口テフラ, ガーネットテフラ) と新第三紀/第四紀境界層準 [3] 銚子半島の地形展望 [4] 屏風ヶ浦ジオサイト：犬吠層群春日層の指標テフラ (Kg2b, In14) [5] 高田川ジオサイト：犬吠層群横根層チバニアン基底付近の指標テフラ (Yk8a) [6] 犬吠層群横根層の指標テフラ (Yk9a:Hkd-Ku) [7] 銚子ジオパークの概要 [8] 飯岡石

日 程：9月7日（水）（日帰り）

定員（最少催行人数）：18（12）

案内者：植木岳雪（帝京科学大）・田村糸子（中央大学）・岩本直哉（銚子市社会教育課 文化財・ジオパーク室）

参加費：8,000円

参照地図（1/2.5万）：銚子，旭

集合・解散：JR銚子駅集合・JR飯岡駅解散

その他：

- ・貸切バス使用。
- ・昼食は各自ご用意ください。犬吠埼にも食堂、売店があります。

Gコース ジオパーク秩父のジオの多様性 ※アウトリーチ巡検，学会補助事業

巡検コース：9：10（出発）西武秩父駅→札所8番昌昌寺→和銅遺跡→美の山展望台→虎岩→秩父華厳の滝→札所34番水潜寺→取方→おがの化石館（ようばけ）→尾田蒔丘陵→西武秩父駅17：15解散予定（雨天の場合，コース変更もあり得ます）

主な見学対象：[1] 蛇紋岩-中新統礫岩の不整合境界と岩殿沢石の石仏群 [2] 出牛-黒谷断層露頭と和銅遺跡 [3] 秩父盆地とそれを取り巻く山地の地形，荒川と3つの河成段丘 [4] 三波川帯虎岩の褶曲とブーディン構造 [5] 秩父帯のメランジュとチャート・石灰岩ブロック [6] 中新統秩父盆地層群の巨大露頭，スランプ構造，化石館。

日 程：日程：9月7日（水）（日帰り）

定員（最少催行人数）：18（10）

案内者：高木秀雄（早稲田大）・吉田健一（ちちぶ地域おもてなし観光公社）

参加費：3,000円（昼食代，化石館入場料込み）

参照地図（1/2.5万）：秩父，皆野

集合・解散：西武秩父駅前9：00集合，17：10解散（ダイヤ改正により変更の可能性あり）

その他：

- ・貸切の小型バス使用
- ・朝，秩父鉄道を利用する場合は，「御花畑」駅下車，西武秩父駅前まで徒歩6分。
- ・アウトリーチ巡検のため，一般市民の参加を優先します。

Hコース 下仁田ジオパーク みどころめぐり—多様な地質現象が生み出した下仁田の文化—

巡検コース：10：00上信電鉄下仁田駅集合⇒ [1] 下仁田駅⇒ [2] 青岩公園⇒ [3] 跡倉クリッペのすべり面⇒ 11：45 [4] 下仁田町自然史館（昼食）⇒ 13：30 [5] 長源寺橋⇒ [6] 川井の断層露頭⇒ [7] 田島屋コンニャク水車跡⇒ [7] 川井の断層 [8] 下仁田層の具化石⇒ [9] 諏訪神社・中央通り⇒ 15：50下仁田駅解散

主な見学対象：[1] 西上州の地形と上信電鉄 [2] 御荷銜緑色岩 [3] 跡倉衝上断層 [4] 下仁田ジオパークの拠点施設 [5] ペルム紀岩体と跡倉層の不整合露頭と跡倉礫岩 [6] コンニャク水車と地形利用 [7] 中央構造線 [8] 中新世の海成層 [9] 地形，地質を利用した産業で栄えた町並みや文化施設

日 程：9月7日（水）（日帰り）

定員（最少催行人数）：20（10）

案内者：松岡敬二（元豊橋市自然史博物館）・井上恵介（名古屋大学）・川瀬基弘（愛知みずほ大学）

参加費：3,500円（昼食代，自然史館入館料，保険料込み）

参照地図（1/2.5万）：下仁田

集合・解散：上信電鉄下仁田駅集合・解散

その他：

- ・全行程徒歩
- ・昼食は，自然史館にて特製弁当を予定。
- ・料金については参加人数に応じてガイド数の変更があるため変動します。

Iコース 伊豆大島火山—玄武岩質火山でみる噴火史とジオパーク—

巡検コース：8：00 御神火温泉／町役場横公共駐車場集合⇒御神火茶屋（三原山）→1986年噴火C火口列→土砂災害跡地→弘法浜→17：00元町（宿泊+夜間集会）：2日目8：30→地層大切断面→筆島西方大島一周道路 →筆島・波浮港（遠望）

→14:00空港・元町港（岡田港）

主な見学対象：[1] 地層大切断面 [2] 御神火茶屋（三原山） [3] 1986年噴火C火口列 [4] 筆島西方大島一周道路 [5] 筆島・波浮港 [6] 土砂災害跡地 [7] 弘法浜

日程：9月2日（金）～3日（土）（1泊2日）

定員（最少催行人数）：25（15）

案内者：鈴木毅彦（都立大）・白井里佳（伊豆大島ジオパーク推進委員会事務局）

参加費：27,000円（宿泊費，2日目昼食代込み）

参照地図（1/2.5万）：大島北部・大島南部

集合・解散：9月2日8:00御神火温泉／町役場横公共駐車場集合，9月3日14:00空港・元町港（岡田港）解散

その他：

- ・伊豆大島現地集合・解散です。現地までの交通手段については，各自お手配ください。
- ・（参考）東海汽船（往路）東京竹芝22:00発，大島翌6:00着（復路）大島14:30発，東京竹芝19:45着。
- ・初日の昼食は各自ご用意ください。
- ・9月2日宿泊については，個室のご用意はありません。1部屋2名の相部屋の予定です。

◆ 巡検実施にあたってのCOVID-19に関わる対応指針（すべて案内者・参加者共通） ◆

<ワクチン接種，体調，マスク着用など>

- ・ワクチン接種をお願いする。
- ・巡検当日の朝の体温が37.5℃以上の場合は参加不可（バス乗車時に測定）。※1）
- ・巡検当日の朝に咳や鼻水，倦怠感，嗅覚異常など感染が疑われる症状がある場合は参加不可。※1）
- ・バス車内や屋内では常時マスク着用。野外でも半径2 m以内に人がいる状況では着用。

<大型バス・マイクロバス等の利用>

- ・乗車人数は制限しない。
- ・常時換気可能な車を手配する。
- ・車中では会話をできるだけ控えるようお願いする。
- ・車中での食事は不可。

<宿泊>

- ・可能な限り個室を確保。
- ・個室確保が不可能な場合は1部屋2名の相部屋も可。ただし相部屋では常時換気するとともに就寝時以外はマスクを着用。
- ・食事は黙食をお願いする。
- ・集団形式の食事中は飲酒禁止。飲酒は一人または少人数で，静かに，マスク着用であることをお願いする。
- ・救急セットに抗原検査キットを含め，2日目以降に必要な際に使用できるようにする。抗原検査で陽性が判明した場合は，その時点でそのコースの巡検を中止する。※2）

<その他>

- ・円滑な巡検実施に支障をきたす恐れのある方（肢体不自由など），およびコロナ感染による重大な影響が懸念される方（基礎疾患を有する方など）には，応募を遠慮いただくようお願いする。
- ・案内者には，事前に現地医療機関の所在地・連絡先等を調べるようお願いする。

※1）この場合は「本人の責に帰さないと認められる事由」と考えられることから，学会のキャンセルポリシーを適用し，巡検参加費の90%の金額を返金します。

※2）中止になった場合の行動指針や返金等については大会HPでお知らせします。

日本地質学会第129年学術大会（東京・早稲田大会）における ダイバーシティ認定ロゴ「ECS (Early Career Scientist)・ EDI (Equality, Diversity and Inclusion)」導入の取り組みについて

この度、日本地質学会は、昨年度試験的に導入した「ダイバーシティ認定ロゴ」を皆様のご意見を反映して改定し、理事会の承認を受け129年学術大会から導入することになりました。本会のさらなる発展のため、会員の皆様のご理解・ご協力と積極的申請をよろしくお願いいたします。

(趣旨) 会員減少傾向が続く本会においては、若手や留学生等を含めた新規入会者への支援、及び多様な会員の積極的な学会活動が必須となってきています。学会活動におけるダイバーシティ(EDI)への貢献を意識し、地質学分野へ新規参画した若手等の研究者(ECS^{*注1})を学会全体で積極的に支援・応援するために、EDIへの取組みやECS該当者を可視化し、包括的な支援に繋げることを目的にロゴを導入します。

本取組によって、学会内のダイバーシティ推進や、ECS対象者にはキャリアマッチングなど就職支援につながる事が期待されます。また、多様な会員が積極的に学会運営(学術大会等)に関わることを推奨することで、学会全体の活性化をもたらす効果が期待されます。

実施内容：

(1) EDIロゴ

以下の3項目について、1つでも該当項目がある場合、付与を希望されたセッションにロゴをつけます。申請はセッション世話人からおこなって頂きます。ダイバーシティ認定ロゴについては5年間実施し、評価・継続を検討します。

<EDIロゴ対象項目>

- ・世話人が複数の性別で構成されている。
- ・世話人にECS (Early Career Scientist) が含まれる。



・多様な国籍(2国籍以上)の世話人構成または発表者。

申請URL: <https://forms.gle/GAQ8jHpAr4eS2CgZ8>

申請者：セッション世話人

締切：2022年7月10日

(2) ECSロゴ

ECS (Early Career Scientist) に該当する方で、付与を希望される会員の方は、学術大会プログラムのお名前横にロゴを(上付きで)おつけいたします。

申請は、学会に参加される該当者ご本人から任意でおこなって頂きます。

申請URL: <https://forms.gle/T9ARvkyMDF1JyhrK8>

申請者：学会に参加する該当者本人

締切：2022年7月10日



*注1：この取組におけるECS (Early Career Scientist) は、学生・院生、またPDの場合は博士号取得後7年以内(ただし公私事由によるキャリア中断年数の加算可)の方で、年齢を問いません。

この取組が、ECSの方々への応援とご自身のキャリア発展への一助になればと願っております。

2022年5月

一般社団法人日本地質学会

ジェンダー・ダイバーシティ委員会 委員長 堀 利栄

行事委員会 委員長 星 博幸



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します。

第 39 回歴史地震研究会 (高槻大会)

場所：関西大学高槻ミュージズキャンパス 大阪府高槻市白梅町7-1

日程および参加費：

2022年9月17日(土)～19日(月)の3日間

17日：研究会・懇親会

18日：研究会・総会

19日：巡検

・研究発表会は大会参加費として会員 2,000 円、非会員 4,000 円を徴収する予定です。
・懇親会を高槻市内で開催する予定です。

巡検 行き先(予定)：

京都大学阿武山地震観測所、今城塚古墳の地震地すべり痕跡、有馬・高槻断層の横ずれ変位痕跡、今城塚古代歴史館、など。定員：40名程度

講演申し込み：

講演申し込みの締め切りは5月31日(火)です。申し込みは下記Webフォーム、もしくは発表者(共同研究の場合は全員の名前と発表者名)・題名・発表形式(口頭・ポスター・どちらでもよい、のいずれか)を明記の上、5月31日(火)までに行事委員会あてに電子メール・郵送のいずれかでお申し込みください。

・Webフォームの場合：<https://forms.gle/X1Rp8XYtz836YF3V8>

・電子メールの場合：rekishi2022@histeq.jp
第39回歴史地震研究会行事委員会 林 能成(委員長)、西村裕一、小松原琢、服部健太郎、木戸崇之、大邑潤三・郵送の場合：〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所 歴史地震研究会行事委員会 大邑潤三 宛

研究会・懇親会・巡検等の参加申し込み：

研究会・懇親会・巡検の参加申し込みは7月31日(日)です。申し込みはWebフォーム、もしくは4.の行事委員会あてに電子メール・郵送のいずれかでお申し込みください。

・Webフォームの場合：<https://forms.gle/YRVY5cmkXAuZUhmK7>

・巡検の参加申し込みにあたっては、保険加入のため、氏名のほかに住所・生年月日・電話番号(携帯可)を後日お問い合わせします。

・巡検の参加受付は、会員及び研究発表会参加者を優先します。

大会の情報は研究会ウェブサイトの「研究会開催情報」上で随時更新いたします。

<http://www.histeq.jp/kenkyukai.html>

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては、採用結果をお知らせいただけましようお願い致します。



東北大学大学院理学研究科 地学専攻・助教公募

募集人員 助教 1名

所属講座 地学専攻地圏進化学講座

募集分野 構造地質学

構造地質学や岩石変形実験・シミュレーションにより地球のダイナミクスに関する研究・教育を行える方。地学専攻の教員と協力し、諸業務や実験装置の維持管理に積極的に尽力いただける方。地学専攻が実施している博士学位プログラムや、東北大学が推進する諸事業に積極的に関わっていただけの方が望ましい。

担当科目 東北大学全学教育(自然科学総合実験を含む)、理学部地球科学系、大学院理学研究科地学専攻の実験・実習(地質調査実習を含む)など。

応募資格 博士の学位を有する者(学位取得後8年未満)または着任時までに取得見込みの者。教育・研究指導のために十分な日本語能力を有する者。

着任予定 令和4年度の出来るだけ早い時期
提出書類

1. 履歴書(写真貼付、連絡先明記のこと)

2. 研究業績リスト

(1) 論文(査読の有無を記すこと)

(2) 著書

(3) その他

3. 主要論文3編の別刷(コピー可)

4. 在外研究歴・研究教育に関する受賞歴・外部資金獲得実績リスト

5. これまでの研究・教育(TA含む)実績の概要(2000字程度)

6. 着任後の研究・教育に関する抱負(2000字程度)

7. 照会可能な方2名の氏名と連絡先

応募締切日 令和4年6月15日(水) 必着

書類送付先 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

東北大学大学院理学研究科地学専攻

掛川 武 宛

応募書類は、封筒表面に「教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送してください。応募書類は原則返却致しません。また、審査において面接を行う場合、交通費は応募者の負担とします。(外国に居住中などの理由で簡易書留郵便が送れない場合は別途相談)

照会先 東北大学大学院理学研究科地学専攻、教授 井龍康文

電話：022-795-6622, e-mail: yasufumiiryu.d8@tohoku.ac.jp

地学専攻の構成員と研究内容は、下記のURLをご参照下さい。

(URL: <http://www.es.tohoku.ac.jp/JP/index.html>)

東京大学地震研究所2023年度 国際室外国人客員教員の推薦公募

推薦者の資格：日本在住の、大学及び国・公立研究機関の教授もしくは准教授またはこれに準ずる研究者

被推薦者の資格と人数：教授、准教授、助教、博士号取得後研究者もしくはそれらに相当する研究歴をもつ外国在住の研究者 若干名

雇用期間：2023年4月1日-10月1日の間に開始する4ヶ月-12ヶ月

ただし、所属機関の都合により4ヶ月以上の滞在ができない場合は3ヶ月以上に限り申請を受け付けます。理由を明記のうえ、申請してください。

研究分野：地震・火山および関連諸分野

推薦締切：2022年8月2日(火) 必着

申請にあたり、まずは本所国際室にご連絡ください。招聘外国人教員の滞在場所及び期間等についてご案内します。

提出書類：・応募用紙(様式1：推薦者が記入のこと)1部

・被推薦者の履歴書1部

・被推薦者の業績リスト1部

・被推薦者の研究歴(英語で300-500語程度)1部

・被推薦者の地震研究所滞在期間の研究計画(英語で300-500語程度)1部

・被推薦者の希望滞在期間及び事前連絡の状況1部

宛先および問合せ先：〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所 国際地震・火山研究推進室(国際室)

Tel. 03-5841-0792 電子メール：intl-office@eri.u-tokyo.ac.jp

東京大学地震研究所2023 年度特定機器利用の公募

公募事項：特定機器利用：地震研究所(以下「本研究科」という。)では、全国の地震・火山の関連分野の研究遂行に資するため、施設・実験装置・観測機器等の共同利用を行っています。このうち、別表Mにある特定機器を2ヶ月以上にわたって利用を希望される場合には、次年度利用分の募を1年ごとに行っています。以下の記載事項をご参照のうえ、期日までに必ずWeb申請を行ってください。

特定機器利用公募要領：<https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/kyodoriyou/#section1>

Web 申請システム：<https://erikyodo2.confit.atlas.jp/>

申請資格：国・公立大学法人、私立大学及び国・公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者。

申請方法：下記、共同利用 HP にある様式 M-1 に必要事項を記載の上、Web 申請してください。共同利用 HP (<https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/kyodoriyou/facilities/#section4>)
研究期間：2023年4月から2024年3月末まで。
審査の方針と採否の決定：本研究所観測開発基盤センター及び共同利用委員会では、提出された申請書に基づいて、研究計画の内容が共同利用の趣旨に沿っているかどうか等の審査を行い、採否を決定します。採否の決定は、2022年7月末までに行われ、審査結果を研究代表者宛てに通知します。なお、機器の利用が他の研究グループと重なる場合は、利用台数や利用期間に関して、グループ間での調整をお願いすることがあります

申請期限：2022年6月30日（木）【厳守】

※本申請は年に1回ですが、臨時貸出の場合は、その限りではありません。

問い合わせ先：

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所研究支援チーム
(共同利用担当)

電話：03-5841-1769,5710

E-mail：k-kyodoriyou@eri.u-tokyo.ac.jp

EIG CONCERT-Japan 第9回共同研究課題「原子レベル での材料設計」公募

科学技術振興機構 (JST) では、戦略的国際共同研究プログラム (SICORP) の一環として、日本と欧州諸国で多国間共同研究を推進する EIG CONCERT-Japan の枠組みに基づき、EIG CONCERT-Japan 第9回共同研究課題「原子レベルでの材料設計」の募集を開始しました。今回の募集では、欧州2カ国以上の研究機関および日本側研究機関から構成される日欧共同研究チーム (コンソーシアム) による共同提案が対象となります。

公募案件：EIG CONCERT-Japan 第9回共同研究課題

公募領域：原子レベルでの材料設計 (Design of Materials with Atomic Precision)

公募期間：2022年5月9日 (月) ~7月18日 (月)
支援期間 3年間

支援規模 1課題あたり日本側は3年間総額上限1,820万円 (間接経費含む)

支援課題数 6課題程度

公募目的及び対象：

本公募は、主に原子レベルでの材料のデータ科学・計算科学に基づいた材料設計、制御技術、分析・評価技術に着目し研究を進めることで、新しい物質の創製だけでなく、創製手法開発や特性評価手段の向上により効率的

な新機能・新価値創出を目的とします。

<募集の詳細ページ>

https://www.jst.go.jp/inter/program/announce/announce_material2022.html

<お問い合わせ先>

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)

国際部 事業実施グループ 担当 橋本、片山

〒102-0076 東京都千代田区五番町7番地

Tel: 03-5214-7375 Fax: 03-5214-7379

E-mail: concert@jst.go.jp

各賞・ 研究助成



日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します。

第17回「科学の芽」賞応募

応募資格：全国 (海外を含む) の小学校3学年～、中学校、義務教育学校、高等学校 [高等専門学校3年次までを含む]、中等教育学校、特別支援学校の個人もしくは団体「小学生部門」、「中学生部門」、「高校生部門」に分けて公募します。

募集作品：

ふしぎだと思うこと

これが科学の芽です

よく観察してたしかめ

そして考えること

これが科学の茎です

そうして最後になぜがとける

これが科学の花です

朝永振一郎

朝永先生の言葉のように自然現象の不思議を発見し、観察・実験して考えたことをまとめましょう。素直な疑問や発見があるもので、この一年間で新しく発見したことを中心にまとめた作品を募集します。応募作品は、レポート用紙A4判 片面10枚以内にまとめてください。

応募期間：2022年8月22日 (月) ~9月17日 (土) 消印有効

応募方法：附属学校教育局ホームページ (下記) 内の「科学の芽」賞のページ「申し込みフォーム」より必要事項を入力し出力されたPDFを作品の一番上に貼り、下記住所までご送付ください。

送付先：〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学「科学の芽」賞実行委員会宛

(注) 応募作品は原則として返却しません。「科学の芽」賞受賞作品は、HPに公開されます。

審査方法：筑波大学教員、筑波大学附属学校

教員及び後援団体関係者などが審査・選考を行います。(審査結果発表：2022年11月下旬)

表彰式・発表会：2022年12月17日 (土)、筑波大学 (茨城県つくば市)

※表彰式・発表会の模様 (写真) は筑波大学のホームページで公開いたします。

※新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、オンラインで実施します。

詳しくは、<https://www.tsukuba.ac.jp/community/students-kagakunome/>



紹介

熊本地震の痕跡からの学び

熊本大学くまもと水環境・減災研究
教育センター減災型
社会システム部門 編



熊本大学 2022年3月31日出版、A5判、
164ページ、1,980円 (税込)、
ISBN:978-4-908313-84-4 C3044

このたび、熊本大学から、2016年に発生した熊本地震の痕跡を集めた書籍が出版されました。私は5万分の1地質図幅「砥用」(2005)、20万分の1地質図幅「八代及び野母崎の一部」の調査の過程で日奈久断層についても検討を行った経験があります。その際、1999年10月31日、同年11月10日や、2000年6月8日に、日奈久断層北部で地震が発生したことから、九州では活動度の高いとされている日奈久断層の活動が気になっていました。ただ、地質学の面からなら貢献できることなく熊本地震になってしまったことは、誠に残念でした。

このため今回出版された「熊本地震の痕跡

からの学び」は、自分事として興味深く読ませて頂きました。本書では熊本地震で起こったこと、その痕跡、その後の調査などで明らかとなった知見を、地元の研究者を中心に、写真を多用して広くとりまとめてあります。特に地元ならではの、被災直後の何も手を入れていない状況の写真が多数掲載されていることと、それを地質学的に解釈しているところ、忘れた頃にやってくる災害を、一般の人にも目に見える書籍の形で残しておく価値は高いと思います。

また、地質学的な分野だけでなく、災害というキーワードでまとめられていて、多くの他分野の方の目線も含めて熊本地震を捉えているところも特筆すべき所と言えるでしょう。理学的な場所に身を置く方が多い地質学会の会員にとって、地質学の知見を社会的な価値

に変えるためにも、目的志向で分野横断の活動を行う良い例として、読んで頂けると良いと思います。

巻末には、熊本地震関連でも数多く行われたトレンチでのほぎ取り標本の写真と、現在それらを観察できる場所が掲載されているところも、注目すべきところ、地層を証拠として残せるほぎ取り標本の作成は、近年ポピュラーな研究手法としてよく使われるようになっており、地質に残された記録を実感できる点で、一般市民にも地質の理解の助けになると思います。

残念な点を指摘するとしたら、写真の数を増やしたいために、写真が小さくなっている単元があること、すべての単元に位置情報はあまるもの、写真の撮影場所までは示されていないために、後から訪問するのに難儀す

るかなと思いました。

地球上に住む私たちは、その土地固有の災害リスクをゼロにすることはできません。ただ本書の中で取り上げられているように、阿蘇カルデラの中は火山、地震、斜面災害のリスクが高いことは明らかですが、一方で風景、温泉、湧水などたいへん魅力的です。おおむね地球上に私たちがいる限り、初生的なプラスマイナスはゼロかなと思います。ただ、関わる人の知識・判断次第で、自分の短い人生の中でマイナスを減らし、プラスを増やすことはできると思います。そういった知識・判断を支える一つとして、本書が活用されることを期待します。

(斎藤 真)

CALENDAR

2022.5～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

★印は学会主催、(共)共催、(後)後援、(協)協賛。

2022年

6月 June

第237回イブニングセミナー (オンライン)

6月17日 (金) 19:30～21:30

演題:「熱海で発生した泥流被害とその他の近年の土石流・泥流被害」

講師:安田 進(東京電機大学名誉教授)

主催:NPO法人日本地質汚染審査機構

<http://www.npo-geopol.or.jp/event.htm>

地質学史懇話会 (オンラインとハイブリッド)

6月18日 (土) 13:30～16:30

場所:早稲田奉仕園(東京メトロ東西線早稲田駅下車徒歩5分)

中川智視「19世紀アメリカにおける専門化の進展」(仮) /五味 篤「高橋是清のブルー銀山事件と地質関係者」

問い合わせ先:矢島道子pxi02070@nifty.ne.jp

7月 July

(後)第59回アイソトープ・放射線研究発表会 (オンライン)

7月6日 (水)～8日 (金)

事前参加登録締切 6月10日 (金) 17時

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jrias2022/top>

8月 August

(後)科学教育研究協議会第68回全国研究大会 (岡山大)

8月10日 (水)～12日 (金)

会場 岡山理科大学 岡山キャンパス

<https://kakyokyo.org/>

第76回地学団体研究会総会 (長野)

8月20日 (土)～20日 (日)

開催方式:現地開催とオンラインのハイブリッド方式

会場:信州大学教育学部(長野県長野市)

<https://www.chidanken.jp/>

(後)第9回国際地学教育会議

8月21日 (日)～25日 (木)

場所:くにびきメッセ(鳥根県コンベンションセンター)

<https://ja.geoscied9.org/>

9月 September

★日本地質学会第129年学術大会(2022東京・早稲田大会)

9月4日 (日)～6日 (火)

会場:早稲田大学 早稲田キャンパス(東京都新宿区西早稲田)

※関連行事「地質情報展2022とうきょう」は同会場で9/3-9/5開催予定です。

(後)第65回粘土科学討論会

9月7日 (水)～8日 (木)

(討論会のみの実施。現地見学会は開催しません)

会場:鳥根大学

http://www.cssj2.org/event/annual_

[meeting/](#)

日本鉱物科学会2022年年会・総会

9月17日 (土)～19日 (月)

会場:新潟大学

<http://jams.la.coocan.jp>

第39回歴史地震研究会 (高槻大会)

9月17日 (土)～19日 (月)

場所:関西大学高槻ミュージアムキャンパス

<http://www.histeq.jp/kenkyukai.html>

国際ゴンドワナ研究連合 (IAGR)

2022年総会及び第19回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム

9月23日～25日 (シンポジウム)

9月26日～27日 (峨眉山巨大火山区野外巡検)

場所:中国四川省成都工科大学

<https://www.data-box.jp/pdir/4aa617ecc00845c284f085edba48ecc5>

11月 November

日本火山学会2022年度・秋季大会

11月3日 (木)～6日 (日)

会場:三島市民文化会館・三島市民生涯学習センター(状況により開催方法・内容が変更になる可能性があります)

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html>

注意:新型コロナウイルス感染拡大の影響により、行事中止の可能性もあります。実際の行事開催の有無については事前に各主催者、問い合わせ先にご確認ください。



博物館で地学を学ぼう！(5)
横須賀市自然・人文博物館

info

横須賀市自然・人文博物館

〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台95

<https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/>

三浦半島のフィールドワークの拠点

横須賀市自然・人文博物館 学芸員 柴田健一郎

横須賀市自然・人文博物館の概要

神奈川県東部の三浦半島は、首都圏からアクセスしやすい地質学的なフィールドワークに最も適した場所の1つといえます。三浦半島の自然と歴史を扱う博物館として、横須賀市博物館は1954年、神奈川県横須賀市久里浜に開館しました。自然部門は1970年、人文部門は1983年に京急横須賀中央駅からほど近い横須賀市深田台へ移転し、横須賀市自然・人文博物館となりました。1959年には三浦半島の典型的な山林の自然を保全する馬堀自然教育園、1966年には海岸の景観と動植物を保全する天神島臨海自然教育園、さらに2002年には横須賀製鉄所に関する近代化遺産を保存するヴェルニー記念館が、博物館の付属施設として開園・開館しました。このように横須賀市自然・人文博物館は本館と3つの付属施設からなります。ここでは本館の地質学系の展示と3つの付属施設、そして当館の教育普及活動についてご紹介します。

本館の展示

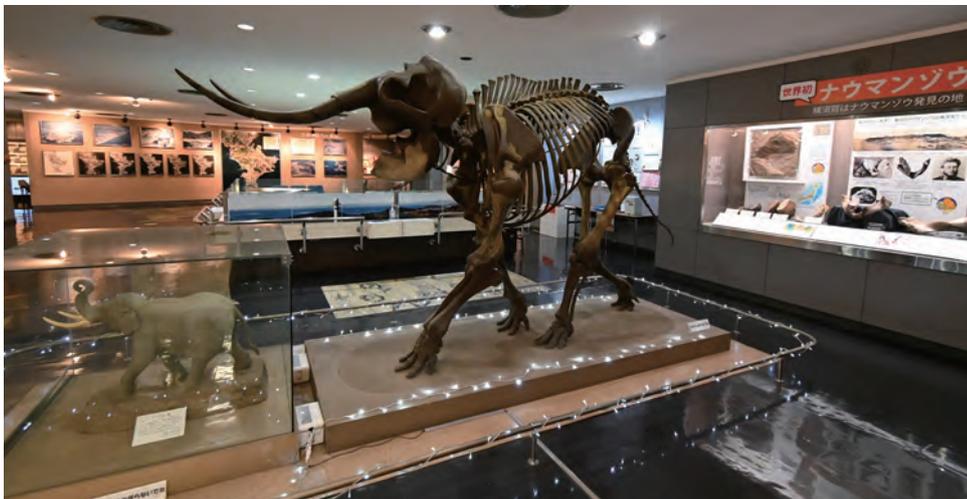
本館2階の入口を入ると、来館者をナウマンゾウの全身骨格がお出迎えます。「ナウマンゾウ」の展示です。1867年、日本の近代化に大きな影響を与えた横須賀製鉄所(現:米海軍横須賀基地)を建設中、白仙山と呼ばれた山を切り崩した際に長鼻類の下顎化石が

見つかりました。その化石は1871年に大学南校(現:文部科学省、東京大学)に送られ、ドイツ人の地質学者エドムント・ナウマンによって研究されました。これが最初に発見されたナウマンゾウ化石です。現在、下顎化石の左側は国立科学博物館、右側は学習院中等科・高等科標本室に収蔵されています。当館では長らく左下顎のレプリカのみを展示してきましたが、2019年から左右の下顎化石のレプリカを合わせた状態で展示を始めました。また、横須賀市内の別の場所から発見されたナウマンゾウの上腕骨、肩甲骨、臼歯化石の実物標本、前述した千葉県印旛沼産のナウマンゾウの全身骨格レプリカなども展示しています。自然科学と人文科学が融合した「ナウマンゾウ」の展示は、当館のシンボルであるとともに、一番の見どころとなっています。

自然部門の展示は順路が定められてはいますが、基本的にどの展示から見ても内容が理解できるようになっています。「ナウマンゾウ」と同じフロアには「深海から生まれた三浦半島」の展示があります。三浦半島は主に新第三系と第四系の火山砕屑岩、凝灰岩、および泥岩から構成され、多数のテフラ鍵層を含みます。それらの大部分は深海環境で堆積した降下火砕堆積物、タービダイト、半遠洋性泥岩からなります。これらの堆積物は、南から北に向かって、はざとり型の付加体とそ

の被覆層(中新-鮮新統三浦層群三崎層と初声層)、海溝斜面ブレイク(かつて付加体として形成された中新統葉山層群と点在するオフィオライト様岩類)、前弧海盆堆積物(中新-鮮新統三浦層群逗子層と池子層、更新統上総層群)と解釈されます。また、三浦半島には5本の活断層が存在し、いくつかは近い将来に活動が予想されています。このように三浦半島は深海から生まれ、プレートの沈み込みによって変形、隆起し、陸地となった現在でも地殻変動が活発な地域といえます。これらの地質学的背景を理解するための堆積岩類、三浦半島最古の岩石である三浦枕状溶岩、蛇紋岩、ミウラニシキヤシロウリガイ類などの軟体動物化石、地質図などを展示しています。現在は人工的に覆われてしまった更新統宮田層の化石産地「津久井化石床」の地層はざとりに標本も見どころの1つです。また、三浦半島の各種岩石に触ることができるハンズオン展示も設置しています。「深海から生まれた三浦半島」の展示に隣接して、関東地方南部から相模湾周辺を水平1:50,000、垂直3:50,000の縮尺で復元した「三浦半島をとりまく地形」、三浦半島や全国の活断層を概説した「活断層」の展示もあり、より広い視点から三浦半島の地球科学について学習できます。

1階には地質時代の代表的な準化石を展示した「生命の歴史」があります。先カンブリア時代のストロマトライト、古生代のフズリナ、三葉虫、コルダイト、中生代のアンモナイト、プテロトリゴニア、始祖鳥のレプリカ、新生代の貨幣石、ピカリヤ、メタセコイアなど著名な化石がズラリと展示されています。これらには、当館学芸員がこれまでに



左:ナウマンゾウ。右上:横須賀製鉄所産のナウマンゾウの下顎化石。1867年11月6日撮影。ヴェルニー自家資料より。右下:展示中の下顎化石のレプリカ。



左上：深海から生まれた三浦半島。右上：生命の歴史。左下：天神島臨海自然教育園の三浦層群。右下：馬堀自然教育園の走水礫部層。

研究した化石標本も含まれているのが特徴です。例えば、北海道産のアンモナイト、イノセラムス、コウモリダコ類の顎器を含む長頸竜類のレプリカ、横須賀産のイノシシ類頭骨化石、アメリカ合衆国ユタ州産の肉食恐竜の足跡化石のレプリカなどは、当館特有の展示物といえます。

2021年に特別展示「足跡化石から探る太古の世界～恐竜からナウマンゾウまで～」を開催しました。特別展示で制作した展示物の一部は「ナウマンゾウ」や「生命の歴史」に移設し、2022年1月と3月には地球科学系の展示パネルを更新しました。本稿で紹介した展示は、基本的に自然部門が現在の場所に移転した1970年から続く展示です。博物館全体の大規模な展示リニューアルの可能性を探る一方、小規模なりニューアルを行って最新の情報をお伝えできるように努めています。

馬堀自然教育園

東京湾に面した山林と水辺の動植物を保全している教育園で、横須賀市の天然記念物に指定されています。現在では多くの露頭が失われてしまった更新統横須賀層を観察できる貴重な場所となっています。横須賀層は下部



子ども地球教室。三浦半島活断層調査会による砂層の液状化実験。

の大津砂泥部層と上部の走水礫部層に細分されます。MIS5.5の堆積物である大津砂泥部層は、当時の関東地方に広がっていた古東京湾の南縁を埋積した地層、走水礫部層はMIS5.4のユースタシーの低下に伴った三角州の前進によって形成された地層と考えられています。教育園内ではこれらの地層に加えて中新-鮮新統三浦層群逗子層の露頭も観察できます。残念ながら植生により露出状況はよくありませんが、地層の観察から古環境の変遷を学習することができます。園内には学習棟が併設され、教育園の地質や動植物について展示しているほか、トウキョウサンショウウオやカブトムシなども飼育展示しています。

天神島臨海自然教育園

三浦半島の代表的な海岸の自然環境を保全している教育園で、天神島と筥島の周辺海域は神奈川県天然記念物及び名勝に指定されています。相模湾に面し、丹沢山地から箱根山、富士山、伊豆半島、伊豆大島などを眺望できます。この教育園の岩礁には中新-鮮新統三浦層群が良好に露出し、地質調査の実習に適しています。主に凝灰質粗粒砂岩からなる地層は南西に40～50°傾き、斜交層理や注入構造、断層などが観察できます。三浦半島で限られた場所での観察できない火山豆石も手軽に見ることができます。春の大潮の干潮時には露頭が観察しやすくなるに加え、潮だまりでカニやヒトデ、ウミウシなど様々な海洋生物も観察できるのでオススメです。園内にはビジターセンターがあり、天神島の地質のほか四季折々の動植物の見どころなどを紹介しています。

ヴェルニー記念館

JR横須賀駅に隣接し、横須賀製鉄所の首長として日本の近代化に貢献したフランソワ・ヴェルニーの功績を伝える施設です。ス

チームハンマーなど横須賀製鉄所関連の近代化遺産を展示しています。ここからは1867年にナウマンゾウの下顎化石が発見された白仙山跡（現：米海軍横須賀基地のドライドック付近）を眺めることができます。

教育普及活動

三浦半島の地層や地形の観察会を定期的に開催しています。令和3年度は「野比海岸の地層」、「活断層による地形の観察」を開催しました。横須賀市野比海岸は活断層である北武断層の破碎帯が露出し、三浦半島では珍しい岩石である蛇紋岩や斑れい岩、玄武岩などの転石が採集できます。参加者と一緒にこれらの岩石を探索しましたが、子供も大人も夢中になって岩石を探していました。三浦半島のジオサイトを巡る全4回の連続講座「横須賀ジオツアー」も毎年開催しています。初回の講義で三浦半島の地質の概略を解説し、残り3回は野外で実際に地層や岩石を観察します。リピーターの多い人気のイベントとなっています。

夏休みには小中学生向けのイベントを開催しています。「子ども地球教室」では化石や岩石の観察、偏光顕微鏡による岩石薄片の観察、三角州形成実験、砂層の液状化実験などを行っています。「自分で作る！化石レプリカ」では石膏と水を混ぜてシリコンの型に流し込み、2つの化石レプリカを作ります。レプリカはおみやげとして持ち帰れます。レプリカ作りの指導は博物館実習生に担当させています。実習生にとって博物館の教育普及活動を学習できる貴重なイベントとなっています。

これらのイベントの多くは、市民団体である三浦半島活断層調査会の協力を得て開催しています。三浦半島活断層調査会は1995年の阪神淡路大震災をきっかけに、三浦半島の地質や活断層について深く学びたいという市民が集まって設立されました。三浦半島の地質調査や、地震災害についての普及活動などを精力的に行われています。設立当時から横須賀市自然・人文博物館とは調査研究やイベント開催などにおいて協力関係にあります。地球科学分野に限らず、当館では様々な市民団体と協力した博物館活動が行われていることが大きな特徴といえます。

おわりに

横須賀市や三浦半島には地質学をはじめ自然科学や歴史学の学習に適したフィールドや文化財が数多く存在します。ぜひ横須賀市自然・人文博物館本館と3つの付属施設を見学していただくと同時に、フィールドワークの拠点としてご活用いただき、多くの場所に足を運んでいただければと思います。

当館は三浦半島の自然と歴史を扱う地域博物館ですが、歴代の先輩学芸員たちはそれぞれの専門について三浦半島だけでなく、全国または海外をフィールドに研究を続けてきました。それらの研究成果は展示物にも反映されています。これからも三浦半島の地域資源を素材として、自然科学や歴史学をグローバルな視点で学習できる博物館を目指していきたいと思っています。

第2回JABEEオンラインシンポジウム 『昔と違う イマドキのフィールド教育』 開催報告

地質技術者教育委員会（佐々木和彦）

昨年に引き続き、JABEEに関するオンラインシンポジウムを2022年3月6日（日）13:30～18:30にZoomを用いて開催しました。

昨年のテーマは『自然災害列島における地質技術者の育成－大学統合期における地質学教育－』であり、今年は『昔と違う イマドキのフィールド教育』というテーマとしました。

地質学教育においてフィールド教育は最も基本的な教育項目であり、地質学を学ぶ上で最も重要なもののひとつです。また、地質技術者として社会で活躍するために必要な技術といえます。昔からフィールド教育は大学で活発に展開されてきましたが、時代と共に大学をめぐる状況も変わり、フィールド教育の実施方法も多様になっています。地質技術者教育委員会では、本シンポジウムにおいてJABEE認定大学におけるフィールド教育の実際を報告してもらい、それを題材として現代に即したフィールド教育について考えてみることにしました。

今回は、以下の5大学と1企業から話題提供があり、その後総合討論をしました（講師の敬称略）。

●講演①「茨城大学におけるフィールド教育」

小荒井衛（茨城大学大学院理工学研究科 教授） ※本委員会委員

小柴理人, 橋本果歩（同大学 修士1年）

●講演②「島根大学におけるフィールド教育としての進級論文」

林 広樹（島根大学総合理工学部地球科学科 准教授）
※本委員会委員

学生コメント：石垣 璃, 真貝人和（同大学 学部3年）

●講演③「千葉大学における多様な地球科学のフィールド教育」

金川久一（千葉大学理学研究院 教授） ※本委員会委員
小野誠仁（同大学 博士1年）

●講演④「新潟大学理学部理学科地質科学プログラムにおけるフィールド教育と安全対策」

豊島剛志（新潟大学理学部理学科 教授）
共著：植田勇人, 栗田裕司（同大学 准教授）

●講演⑤「山口大学におけるフィールド教育のPDCAサイクルとシステム化」

大橋聖和（山口大学理学部地球圏システム科学科 准教授）
共著：志村俊昭（同大学 教授）

●講演⑥「現場を診る力～継続は力なり～」

栃本泰浩（川崎地質株式会社 代表取締役社長）

●総合討論：『昔と違う イマドキのフィールド教育』

座長 天野一男（東京大学空間情報科学研究センター客員研究員） ※本委員会委員長

効果的なフィールド教育のために、各大学では地域的な特色や伝統などを活用した様々な施策や工夫を凝らしていることが紹介され、茨城大学、千葉大学、島根大学では学生・院生からもそれらの施策や工夫がとても役立っているとのコメントがありました。

Q. あなたの所属を教えてください。
85件の回答



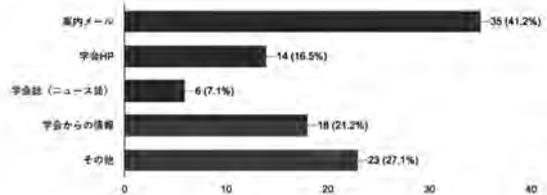
Q. あなたは日本地質学会員ですか？
85件の回答



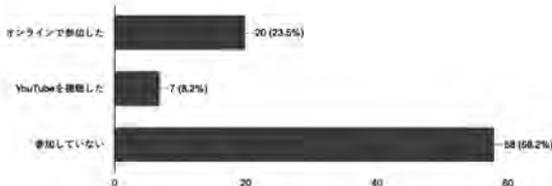
Q. あなたの年齢を教えてください。
85件の回答



Q. 本シンポジウム開催をどのように知りましたか？（複数回答可）
85件の回答



Q. 昨年の第1回JABEEオンラインシンポジウム「育一」に参加・視聴されましたか？（複数回答可）
85件の回答



Q. 本シンポジウムの満足度を選んでください。
85件の回答



一方、地域によっては適切なフィールドが近傍にないことや、移動に伴う交通機関に係る課題も指摘されました。これらの課題は以前からもありましたが、今回の発表では、安全教育の徹底や安全装備の充実、公共交通機関の活用、グループワークによる安全対策、保険の活用など、いろいろな対策の説明がありました。

また、フィールド教育に限らず、学生が何をいつ学ぶか、換言すれば教員はどのように教えるかをシステム化する例が山口大学から紹介され、学生がオンラインで自主点検できるしくみも説明されました。

企業を代表して川崎地質㈱からは、実社会でのフィールド調査の重要性とそれをマスターするための大学教育への期待が語られました。

最後に磯崎会長の挨拶で5時間にわたったシンポジウムをお開きとしました。

なお、シンポジウムの様子は、以下のサイトで視聴できますので、是非ご覧ください。

第2回JABEEオンラインシンポジウム『昔と違う イマドキのフィールド教育』- YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=hl-2sYxYiOM&t=1977s>

シンポジウムには、190名近くの参加申し込みがあり、当日参加は講師を含め約150名でした。アンケートに答えた参加者は85名で、結果は以下のとおりです。

- ①参加者の所属は、企業人が60%、大学教員が18%でした。
- ②58%が学会員で、非会員は42%と、非会員の方々も多く参加しました。
- ③参加者の年代は、20代11%、30代9%、40代19%、50代34%、60代18%、70代以上9%と幅があり、いろいろな年代層に興

味あるテーマであったと思われます。

- ④シンポジウムへの満足度は、「満足」と「とても満足」を合わせると91%に達しました。

日本地質学会地質技術者教育委員会では、JABEEを通じて大学における高等教育の質の向上および実社会に送り出す技術者としての教育支援に加え、就職先としての専門技術者業界の情報発信に尽力しています。最近では、以下の施策を企画し、学会HPに掲載していますので、是非ご参加あるいはご活用ください。

<http://www.geosociety.jp/engineer/content0003.html>

- ①**高校生へのJABEE普及ポスター**

今年も、全国の800を超える全国の高等学校および関連する高等専門学校に、JABEE地球・資源分野を紹介するポスターを送付する予定です。

- ②**若手学生のための業界研究サポートサービス**

昨年はオンラインでの地質系企業・団体への訪問を行い、とても好評でした。

今年は学術大会が3年ぶりに対面方式となるため、対面とオンライン方式の両方で企画しています。

詳細は今後HPに掲載します。

- ③**地質系若者のためのキャリアビジョン誌**

地質コンサルタントの業態を理解してもらうため、今年も刊行する予定です。

2021年度は協力していただいた73社の紹介資料を全国の40を超える地質系大学などに送付しました。

- ④**JABEEオンラインシンポジウム**

昨年、今年と続けて開催し、来年も開催すべく検討しています。

表紙紹介

第13回惑星地球フォトコンテスト：優秀賞 恐怖の石段

写真：高木 嶺（東京都）

撮影場所：パキスタン北部ゴジャール地区フセイニ村

撮影者より：フンザ川にかかる世界的に危険で有名なフセイニの吊り橋（長さ約200 m）を渡った先が断崖絶壁になっており、その上の段丘面を利用した羊や山羊の放牧場へと村人が大きな荷物を担いで行き来している姿を狙って撮影しました。断崖の道は薄く剥がれやすいスレート製の岩板が敷石となっていますが、地震や土砂災害もある場所で崩れやすいので、恐怖の吊り橋を渡り切っても安心できない道が大変印象的でした。

審査委員長講評：撮影地はパキスタン最北部の7000m峰が連なるカラコルム山脈です。垂直な岩壁、積み上げられたスレートの敷板、そこを生活の道として行き来する人、それぞれの配置が絶妙です。私が行ったら足がすくんで動けなくなりそうな場所です。これからも写真を通して世界の秘境を地質学的な見地から紹介してください。（白尾元理）

地質的背景：北部パキスタンはヒマラヤ山脈の延長でインドプレートの衝突により8000mを超えるカラコルム山脈が連なっています。フンザは白亜紀に日本列島のような島弧であったコヒスタン弧とアジアプレートの衝突境界に位置し、中圧型の変成帯からなります。この付近は南北に圧縮されてきた垂直に立った劈開を持つ岩石が急峻な崖を形成しています。この恐怖の石段は薄くて剥がれやすい性質を持つ粘板岩で作られています。硯やスレート葺きに使用される粘板岩は加工が簡単で積みやすいので家屋や階段の材料としてフンザ谷では頻繁に使用されています。（芳野 極：岡山大学惑星物質研究所）

地質学雑誌

地質学雑誌は、2022年（128巻）からは完全電子化となりました。会員の皆様に、公開されている新しい論文をご紹介します。ぜひJ-STAGE上で本論文を閲覧してください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geosoc/-char/ja>

新しい論文が公開されています

論説 鹿児島湾奥、始良カルデラにおける後カルデラ火山活動と環境の変遷

鹿野和彦, 柳沢幸夫, 奥野 充, 中川光弘, 内村公大, 味喜大介, 井口正人

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2022.0003>

新島の露頭と新島地震観測井コアを調査し、始良カルデラの後カルデラ火山活動と環境の変遷を明らかにした。始良カルデラは当初、淡水湖であったが、14.5 cal ka BP頃に海水が流入して内湾に変わった。海進前の淡水湖にはラホールなど様々な粒子濃度の密度流が繰り返し流入し、北東隅の若尊火山から噴出した流紋岩質水底密度流がカルデラ内に堆積し、桜島の爆発的噴火で生じたテフラが新島周辺に堆積した。若尊火山と桜島火山の活動は海進の直前に穏やかになったが、13 cal ka BP頃に若尊火山で新島軽石が大量に噴出してカルデラが形成され、さらに小規模ながら新島南部軽石が噴出した。また、新島軽石と新島南部軽石の噴火の合間を縫って桜島でも大規模な爆発的噴火が発生し桜島薩摩テフラが噴出した。その後若尊カルデラの活動は静穏となったが、桜島火山は爆発的噴火と溶岩流出を繰り返し、始良カルデラ底に噴出物をもたらした。

フォト 福井県三方郡美浜町で新たに確認された敦賀断層の露頭

立石 良, 島田耕史, 岩森暁如, 和田伸也, 瀬能正太郎, 長田 健
<https://doi.org/10.5575/geosoc.2022.0007>



Fig. 2. A photo viewing of the offset stream channel and the fault outcrop (Orito-2). Location of Orito-2 is consistent with those of offset stream channels formed by strike-slip fault activity.

報告 Kasimovian (Late Pennsylvanian) conodont fauna from a limestone block in the Ōtani Formation, Kuzuryu area of the Hida Gaien belt, Fukui Prefecture, central Japan

Yui Takahashi, Yuichi Fukushima, Gengo Tanaka and Yukio Miyake

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2022.0005>

A conodont fauna characterized by *Streptognathodus* species was recovered from a limestone block (previously called Ōboradani Formation) of the Ōtani (=Ohtani or Otani) Formation belonging to the Hida Gaien belt distributed in the Kuzuryu area, Fukui Prefecture, central Japan. The fauna consists of *Streptognathodus corrugatus*, *S. elegantulus*, *S. excelsus*, *S. gracilis*, *Idiognathodus* sp., *Gondolella bella*, *G. cf. elegantula* and *G. cf. pohli*. These streptognathodids have a wide geographic distribution and indicate a middle-late Kasimovian (Late Pennsylvanian) age, which is slightly older than the Gzhelian (latest Pennsylvanian) age inferred from fusulinid fossils in previous studies. Thus, the limestone block of the Ōtani Formation probably contains the Upper Pennsylvanian carbonate succession.

レター 沖縄島、残波岬北東沖で採取されたモモイロサンゴ遺骸の¹⁴C年代とその地質学的意義

公文富士夫, 徳山英一, 奥村知世, 新井政良, 荒井晃作
<https://doi.org/10.5575/geosoc.2022.0006>

Two dead specimens of the precious coral *Pleurocorallium elatius* were obtained from the sea-bottom surface in submarine depressions at ~350 m water depth off Zanza Cape, Okinawajima Island. Three samples were dated by ¹⁴C analysis, and yielded ages of 32,824–31,709 and 33,685–32,911 cal BP for one specimen and 20,480–20,060 cal BP for the other. These ages suggest that there was almost no deposition of sediment for an extended period in the depressions, which are interpreted as obstacle scours on the basis of their acoustic features. The obtained ages are the oldest known for dead precious corals, suggesting that favorable chemical conditions in the sea water facilitated long-term preservation of dead coral.

ノート 微小領域蛍光X線マッピングの応用：鉄コンクリーション内部に見られる鉄バンドの形成プロセスと移動速度の評価

勝田長貴, 城野信一, 梅村綾子, 河原弘和, 吉田英一
<https://doi.org/10.5575/geosoc.2022.0008>

Fe oxide Liesegang bands have often been observed in sedimentary and igneous rocks, and they are formed during weathering and alteration by water-rock interactions. In this study, micro-X-ray fluorescence (μ -XRF) mapping was used to study the Fe bands in an Fe oxide concretion from the Jurassic Navajo Sandstone in Utah, USA, to estimate the duration of their formation. Most of the peaks in Fe concentration are steeper on the inner side than on the outer side, which indicates a supply of ferrous ions (Fe^{2+}) from outside the concretion. The precipitation of Fe oxide was controlled by pH buffering that resulted from a reaction between acidic water and alkaline pore water that formed through the dissolution of an earlier calcite concretion. The reaction rate within the Fe oxide concretion was estimated from the width of the Fe peaks and the expected diffusion coefficient for Fe through the rock matrix, and it was found to be no more than years to decades—faster than previously estimated. This demonstrates that μ -XRF mapping is a useful technique to extract quantitative information about water-rock interactions from rocks.

☆中部支部

お知らせ

中部支部2022年支部年会開催のお知らせ

日本地質学会中部支部では下記のとおり2022年支部年会を開催します。あわせてシンポジウムと一般講演を行いますので、皆様ぜひご参加ください。

日時：2022年6月25日（土）

受付開始 10:15
 総会 10:30～11:30
 幹事会 11:30～12:00
 シンポジウム 13:00～15:00
 一般講演 15:15～16:30
 ポスターコアタイム 16:30～17:30

会場：金沢大学角間キャンパス+Zoomオンライン（ハイブリッド）

参加費：無料

参加要件：日本地質学会会員であること、非会員の参加は不可（ただし、応用地質学会中部支部会員は参加可）。

事前登録：6月17日（金）までにgoogle forms (<https://forms.gle/nEHHv1wkbBFGXNSH9>)にて参加登録をしてください。登録された参加予定者には後日、Zoomの接続URLを連絡します。

特別講演『海洋掘削科学：日本海』 & 特別討論会『珠洲の群発地震』

趣旨1：掘削科学は科学的仮説を検証するために試料採取場所を選び、自らの力で試料を採取する重要な手法です。特別講演では、日本海での国際海洋掘削計画(IODP Expedition 346)の掘削成果について紹介してもらいます。

趣旨2：能登半島の先端の珠洲市では群発地震が続いています。その予察的な解析から、地下深部の流体の動きが関与している可能性が指摘されています。そこで、群発地震の活動様子および、流体の起源として沈み込む海洋プレートの可能性などについて考えたいと思います。

13:00～13:05 趣旨説明 森下知見（金沢大学）

13:05～13:35 日本海掘削（IODP Exp 346）成果 佐川拓也（金沢大学）

13:35～14:00 珠洲市付近の群発地震の概要 平松良浩（金沢大学）

14:00～14:25 中部日本第四紀火山岩からみるスラブ起源流体の分布 中村仁美（地質調査所）

14:25～15:00 珠洲市付近の群発地震についての座談会 中村+平松+司会

一般講演：(15:15～16:30)

最大5件（先着順）を受け付けます。発表希望者は6月17日（金）

までにgoogle forms (<https://forms.gle/nEHHv1wkbBFGXNSH9>)にて連絡してください。

講演について：

・一般講演は、各講演15分を予定しています（発表12分、質疑応答3分）。

・一般講演は、対面もしくはZoomによる画面共有により行う予定です。

講演要旨：

一般講演に申し込まれる方は6月17日（金）までに金沢大学・田村一長谷部（aking826@gmail.com）まで講演要旨をメールにて送付願います。

・後日、公表論文作成にあたって、支部年会での講演を引用することはできないことになっていきますので、ご了承ください。

・一般講演の講演要旨はA4版、2頁までとします。

・要旨の様式は下記書式に沿ってください。字体は明朝で統一します。お送り頂いたメール原稿をそのままの形で印刷する予定です。

・上下余白：3cm 左右余白：2.5cm

・タイトル：14p（ポイント）太文字

・発表者・所属機関：12p

・英文タイトル：12p

・本文は1行開けて始めてください。

・本文：10.5p

・引用文献：9p

・図表は枠内に収めてください。

・英文原稿の場合は、上記に準じてください。

CPD：地質技術者への継続教育の一環として、大会参加者・発表者へCPD単位を発行します。大会参加と口頭発表の参加証明書は、参加日以降にメールにて送付予定です。

【CPD単位】

口頭発表：5×発表時間（h）例）15分の場合：5×1/4h=1.25単位

学会参加：1×滞在時間

個人講演（ポスターコアタイム）(16:30-17:30)

ポスター発表は10:00～17:30まで掲示することができます。ポスター及び口頭発表希望者は6月17日（金）までにgoogle forms (<https://forms.gle/nEHHv1wkbBFGXNSH9>)にて、発表タイトル、発表者氏名、連絡先をお知らせください。なお、学生・院生のポスター発表は優秀ポスター賞の審査の対象となりますので、ふるってご参加ください。

6月26日（日）巡検：白山手取川ジオパーク（参加申込は締切しました）

大まかな予定は、8:00金沢駅-金沢大学—巡検—金沢大学—17:00金沢駅 バス移動、昼食付きで検討しています。参加費1人5000円程度の予定。参加希望者は田村（長谷部）明弘（問合せ担当：aking826@gmail.com）まで連絡をお願いします。参加者が少ない場合は、キャンセルすることもあります。定員15名程度を想定しています。

申し込み締め切りは5月31日（金）。

研究室紹介
東北大学災害科学国際研究所災害評価・
低減研究部門（菅原研究室）

東北大学大学院理学研究科地学専攻 修士2年
平野史佳

東北大学災害科学国際研究所（災害研）は、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、国内外の巨大災害の被害軽減に向け実践的防災学の礎を築くことを目標に設立されました。災害研は、被災地の復興・再生に貢献するとともに、国内外の大学・研究機関と協力しながら、自然災害科学に関する世界最先端の研究を推進しています。

災害研の災害評価・低減研究部門津波工学研究分野に属する菅原研究室では、フィールド調査や堆積物の分析をはじめとした地質学的手法および数値シミュレーションなどの工学的手法を組み合わせ、津波堆積物に関する研究を幅広く展開しています。他方で、理学部地圏環境科学科（地質学古生物学教室）の協力講座としても活動しています。研究室の活動が複数の学部 に渡っているため、日常的に学問分野の垣根を越えてディスカッションがなされるなど、活発な研究活動が行われています。津波研究を行う理学部・工学部のメンバーが一堂に会する合同ゼミなども行っています。

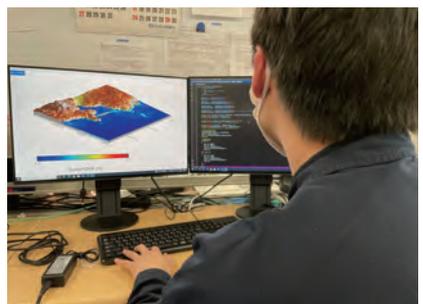
当研究室の主な研究テーマは、「古津波履歴の解明、津波堆積物の数値シミュレーションの高度化」です。研究室には令和4年4月現在、助教1名、技術補佐員1名、留学生を含む大学院生・学部生が9名在籍しており、それぞれ津波堆積物や津波数値計算にまつわる研究活動を行っています。研究室は、教職員と学生の居居が1つの部屋に集まっているため、普段から職位・学年を越えて円滑にコミュニケーションを取れる環境が整っています。教職員・学生間はもちろん、学生同士での技術指導も盛んに行われます。また普段の研究活動に限らず、キャッチボールや芋煮会（宮城・山形の年中行事）など、遊びやイベントも和気藹々と楽しんでいます。

当研究室では、フィールド調査から室内分析・数値シミュレーションと研究活動の幅が広いので、研究手法もさまざまです。フィールド調査では、Ground Penetrating Radar (GPR)を用いた地層探査によりコア掘削ポイントを選定し、ジオスライサーなどでコア掘削を行います。沿岸湖沼などの水上でもボートを用いて調査します。室内分析では、レーザー回折式粒度分析装置によりサンプルの粒度分布や淘汰度などを分析します。画像解析式の粒子分析装置であるMorphologi G3を用いた粒子解析では、粒子径や粒子形状など、定量的な粒子特性評価が可能で

す。また、理学部のX線回折(XRD)分析装置を用いた元素分析なども行なわれています。XRDでは、X線をサンプルに照射した際の回折パターンから物質の組成を知ることができます。そして津波数値シミュレーションでは、高性能なワークステーションや計算機クラスターを用いて津波氾濫解析や土砂移動解析を行なっています。さらに、古い地図や写真、地層データを基に地理情報システム (GIS) 等を駆使して古地形モデルを作成し、数値計算で過去の津波による浸水や津波堆積物の形成を再現する研究も展開しています。

津波という研究テーマは理学（現象の解明）にとどまらず、防災・減災など社会的使命にも直結しています。そのため当研究室では産官学連携を含む共同研究を多く国内外で実施しています。国内では、津波堆積物に基づく古津波履歴の解明（新潟大・東大・北大など）、津波土砂移動解析の検証・妥当性確認（清水建設技術研究所）、高潮氾濫予測リアルタイムシステムの開発（内閣府戦略的イノベーション創造プログラム）、1611年慶長奥州地震津波の波源評価（原子力規制庁・東大・関西大）、デジタル防災コミュニティの市民参加型研究（富士通・東大・東北大・川崎市；JST）などが挙げられます。国外では、メキシコ・ゲレロ州の古地震・古津波（メキシコ国立自治大学）、台湾の古津波堆積物（新華大学・東華大学）など、世界の津波堆積物研究をリードしていくことを目標に活動を展開しています。

筆者は修士論文テーマとして、津波数値シミュレーションにまつわる「津波を原因とする潟湖の地形変化と泥質堆積物の移動に関する数値シミュレーション」に取り組んでいます。研究の背景には、沿岸湖沼（ラグーン）における津波堆積物の堆積プロセスについての先行研究が少ないこと、またラグーンが対象の多くの先行研究では、古津波を対象にしておりシミュレーションと実際の観測記録との照合ができないことが挙げられます（計算結果と観測記録の比較は妥当性検証において重要です）。そのため筆者は、津波堆積物輸送のプロセスの解明及び古津波堆積物の認定に資する知見を得ることを目的に、ラグーン環境を対象に津波土砂移動シミュレーションを実施しています。本研究ではTUNAMI-STMというプログラムを用いました。これは1999年に関西大学の高橋智幸教授（当時東北大工学部）により開発された計算コードを、当研究室で改良・発展させたもので、様々な事例研究に適用されています。筆者は、初めにこのプログラムを用いて津波における単一粒径での「砂」の移動のシミュレーションを行いました。その結果、津波の剪断速度と堆積物輸送プロセスは、ラグーンと陸上の低地とは異なる特徴を示すことなどが判明しました。しかしながら、研究対象地域のラグーンの基底は泥質堆積物に覆われているため、「砂」の移動のみを考慮した計算は妥当性が高いとは言えません。そのため、本研究では「泥」の移動シミュレーションの検討がより重要と言えます。砂と泥では水流の中での挙動が異な



左から、ジオスライサーによるコア掘削の様子。レーザー回折式粒度分析装置による粒度分析の様子。土砂移動解析や津波氾濫解析の様子。

るため、計算に用いる理論式も異なっています。津波泥移動数値解析の意義は、泥質津波堆積物の運搬・形成過程の解明、浸水域・波源推定精度の向上、年代推定精度への影響評価（湖沼・湿地堆積物の侵食・再堆積）など多岐に渡ります。泥移動シミュレーションは、泥に関するフィールドデータが豊富でないことなどを理由に、これまでほとんど行われてこなかった研究であるため困難な道のりである一方、大変有意義なものであると考えています。

筆者の他にも、当研究室の学生は様々な興味深い津波研究を展開しておりますので、各学会発表や当研究室Webサイトなどご覧いただければ幸いです。

(<https://sites.google.com/view/irides-e303/home>)

常時投稿をお待ちしています。編集は、現在以下の4名で行っています。原稿は1500～5000文字程度、図・写真3点以内を目安に、e-mailでお送りください。

dkuwano@chiba-u.jp

桑野太輔（千葉大）

90rymenjpr@gmail.com

時永万音（新潟大）

koki9824k@gmail.com

吉永亘希（九州大）

t-morohoshi@eps.s.u-tokyo.ac.jp

諸星暁之（東京大）

一般社団法人日本地質学会第14回総会開催について

第14回総会を下記の次第により開催いたします。

2022年4月9日
一般社団法人日本地質学会
会長・代表理事 磯崎行雄

2022年6月11日（土）14:00～15:30
【WEB 会議形式】

総会議事次第

1. 議長選出
2. 開会
3. 議案
 - 第1号議案 2021年度事業報告・決算報告
 - 第2号議案 代議員および理事選挙結果報告
 - 第3号議案 2022年度事業計画
 - 第4号議案 2022年度予算案
 - 第5号議案 名誉会員の選出
 - 第6号議案 定款の変更
 - 第7号議案 運営規則および総会規則の変更
4. 閉会

1. 定款20条により、本総会は役員ならびに代議員による総会となります。代議員には、総会開催通知とともに総会に必要な資料等を別途お送りいたします。ご都合で欠席される方は、定款28条第1項にもとづき、議決権行使書および議決権の代理行使（委任状）などにより、総会に出席したものととして議決権を行使することができます。
2. 正会員は、総会に陪席することができます。ただし、総会規則12条3項により、許可のない発言はできません。

学会記事

2021年度第8回執行理事会議事録

日程：2022年1月8日（土）13:00-18:00

【WEB会議】

出席：磯崎・佐々木・平田・中澤・岡田・緒方・亀高・坂口・小宮・辻森・星・大藤・狩野・松田・矢部・高嶋、岩部（監事）

欠席：ウォリス

事務局 澤木

*定足数（過半数：9）に対し、16の出席

*前回議事録（21-7回）確認

報告事項

1. 全体的報告

・「日本列島地質総覧」（加藤碩一ほか編集・執筆、朝倉書店発行）の編集協力のため、校正ゲラを理事会MLへ回覧中。1/14期日で理事に引用等確認を依頼している。

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
・科学教育研究協議会第68回全国研究大会・岡山大会（2022/8/10-12）への後援依頼があり、承諾した。

・令和3年度千葉県職員採用選考考査（地質職）の実施案内があった（1/6締切）
【→geo-Flash掲載】

<会員>

1. 今月の入会者（1名）

正会員（1名）：赤羽千男

2. 今月の退会者（2名）

正会員（2名）：佐藤弘幸、稲垣伸二

3. 今月の逝去者（2名）

正会員（2名）：小島秀康（逝去日：2021年8月12日）、大江 巖（逝去日問合せ中）

4. 2021年12月末会員数

賛助：27、名誉：39、正会員：3294 [正：3169、院割：117、学部割：8] 合計3360（昨年比-82）

<会計>

・故糸魚川淳二名誉会員のご遺族より寄付（30万円）のお申し出をいただき、謹んでご遺志をお受けすることとした。

<その他>

特になし

3. 広報部会（坂口・小宮）

1) 広報委員会（坂口）

・フォトコンテスト締切が1月末に迫っている。今年も多数の応募を期待している。

・ジオルジュの取材は5月分までは終了。コロナ再拡大で取材も難しくなっているが、11月分も早めに実施予定。

4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）

1) 行事委員会（星）

・早稲田大会のトピックセッションを募集（3月10日締切）。募集記事をニュース誌1月号に掲載予定。招待講演者の発表負担金徴

収しないことを確認した。

・JpGU2022で開催する「地質学露頭紹介」についてJpGU大会運営委員長と協議中。地質学会からの主な提案は次の通り：イベントタイトル（仮）「地質学露頭紹介 at JpGU2022」；日本地質学会とJpGUの共催；5/29（日）午後オンライン開催希望；地質学会Zoomアカウントを使用；参加・発表できるのはJpGU2022大会参加者および地質学会会員；参加は事前申し込み不要；発表希望者は事前申し込みが必要（受付事務は地質学会事務局が担当）；当日YouTubeライブでも流す（JpGU非参加者や地質学会非会員もYouTubeで視聴可）；大会終了後、紹介内容（写真・解説）をニュース誌に掲載し（記名記事）、地質学会ウェブサイトにも掲載（JpGUウェブサイトにもリンクを貼ってもらう）。

<開催趣旨> とっておきの露頭や解釈困難な露頭、専門家から意見をもらいたい露頭など、さまざまな露頭写真を持ち寄り、その学術的意味についてZoomで解説したり意見交換したりする。参加者から質問やコメントを出してもらい、参加者全員で楽しむ。写真の芸術性よりも学術的な重要性や疑問、おもしろさなどを意識。露頭（の写真）を見れば、地球惑星科学にかかわる人なら何か言いたくなる・聞きたくなることを期待。地質系の学生や研究者はもちろん、地質をあまり知らない方からの紹介や質問を大歓迎。

2) 専門部会連絡委員会（辻森）

特になし

3) 国際交流委員会（磯崎【ウォリス】）

・IGC（2024韓国）巡検関連については、関係各位と継続的に議論している

4) 地質標準化委員会（辻森）

特になし

5. 編集出版部会（大藤・狩野）

1) 地質学雑誌編集委員会（大藤）

(1) 編集状況報告（2022年1月6日現在）

・2021年投稿論文：45 [内訳] 論説25（和文22、英文2）、総説2（和文2）、レター7（和文7）、報告3（和文3）、ノート3（和文3）、口絵5（和文3、英文2）

査読中：23、受理済み：0

・127巻12月号：論説3、報告1、ノート1（48ページ、）

・128巻：論説1（入稿中）、レター1（校正中）

(2) その他

・投稿編集出版規則について、誤字の修正、プレプリントサーバに関わる記載など修正を予定している。

・128巻以降の出版論文については、書誌情報をニュース誌に掲載して会員に周知する。掲載のタイミング等については、ニュース誌編集委員会と相談して進める。

2) アイランドアーク編集委員会（狩野）

(1) 編集状況報告

・投稿状況はあまり良くないが、IF値が2.1

を超える見込み。積極的に宣伝してさらに投稿を促したい。

3) 企画出版委員会（小宮）

特になし

6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）

1) 地学教育委員会（高嶋）

・今年も大学入試共通テストの終了後、速やかに地学関連科目に関する評価を行う予定

2) 地質技術者教育委員会（佐々木）

・キャリアビジョン誌を12月に発行し、各大学等へ発送した。技術者教育への貢献として、技術者を多く輩出したJABEE校を学会から表彰もしくはランキングの公表などしたらどうかとの意見が上がった。

・JABEE運営体制変更についての学会回答（2021年12月11日理事会承認）を12月15日に資源・素材学会に送付（メールと郵送）した。

・第2回JABEEオンラインシンポジウム「昔と違うイマドキのフィールド教育」（3月6日開催予定）の準備状況

・JABEE地球・資源分野運営委員会（2021年12月23日WEB開催）の概要が報告された。JABEE認定をやめるところが増えてJABEEの財政は厳しくなっている。

3) 生涯教育委員会（矢部）

・日本地質学会News2022年1月号より「博物館で地学を学ぼう！」と題した連載を開始する。2022年は関東支部内の博物館等が担当。第1回を神奈川県立生命の星・地球博物館の田口氏（当委員会委員）に担当いただいた。

・学会HPで公開しているNews誌PDF版について、写真や図のカラー差替えを希望。今後広報委員会での検討を依頼した。

4) 地震火山地質こどもサマースクール（松田）

・2022JPGUセッション開催に向けての進捗状況について：5月22日（日）AM1の口答セッション：教育・アウトリーチ「地震火山地質こどもサマースクールのこれまでとこれから」/代表コンピーナ 柴田伊廣（文化庁）、協同コンピーナ 松原 誠（防災科研）・横山 光（北翔大学）・松田達生（工学気象研究所）/6人の口頭発表2人ポスター発表が必要。講演者については、サマースクール創設から関与している中川氏（地震学会）が候補者をリストアップする。全体についての話題、スタッフ参加者からの話題提供、過去のスタッフへのアンケートまとめなど、サマースクールの教育的、社会的役割を考察する内容にする。

5) 地質の日（矢部）

・来年度の街中ジオ散歩の実施について幹事打ち合わせを12/19（日）に行い、国分寺駅周辺での実施を検討することとした。1/15に下見を行う予定（→下見は中止となった）。

・5月の地質の日講演会については今月中に生涯教育委員会を中心に検討を進める。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会

1) 利益相反マネジメント委員会 (中澤)
特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (委員長天野: 代理平田)
特になし

2) 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)
・12/19一次予選 (オンライン開催) 1582名受験, 221名通過, 2次予選は1/23に全国各地各会場で実施。

3) 支部長連絡会議 (平田)
・支部発行の著作物 (支部例会講演要旨ほか) の著作権の取り扱いについて, 各支部に状況を確認した。状況や事業が様々であるが, 今後の手続き方法や対応について, 事務局と相談の上整理する。

4) 地質災害委員会 (松田)
特になし

5) 名誉会員推薦委員会 (佐々木)
・2月10日締切で理事, 専門部会へ推薦を依頼中。

6) 各賞選考委員会 (中澤)
・選考作業中。

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (委員長堀 利栄)
・12/13男女共同参画学協会連絡会定時総会 第20期第1回運営委員会にて磯崎会長が挨拶を行った。

8) 連携事業委員会 (中澤)
特になし

9. 研究委員会

1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長吉田英一)
特になし

2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)
特になし

審議事項

1. 学会運営タスクフォース (学会活性化に関わる会費などの変更について)

・会員種別の変更 (学生会員, 一般会員, シニア会員をもって正会員とする。ジュニア会員の開設), 会費変更などについて, 顧問弁護士にも確認を行った。新しい制度内容については, 4月理事会に最終案を諮り, 来年度の総会での承認を目指す。また並行して定款, 規則類の変更提案も進める。
・新方式の適用年度は, 事務局の作業量を勘案した後, 早急に決める。

・ジュニア会員の枠組みについては, 将来的には小学生まで拡大することも検討するが, 現状では中学生・高校生を対象とする。また学会主催のジュニアセッションなどは, ジュニア会員のみ参加可とする。また入会に際しては担当理事など正会員1名の推薦を求める。

2. 表彰制度の見直し (その2) と関連規則の改正について (運営規則, 各賞選考規則, 各賞選考委員会規則)

・一部賞の名称変更や推薦対象期間の見直し, 「日本地質学会フォールドワーク賞」の新設などが提案され, 了承された。関連規則の改正案と合わせて次回理事会へ諮る。

3. 学術大会セッション変更案 (たつき台)

・セッションの魅力高め, 学術大会を活性化をはかるため, 従来の「レギュラーセッション」を「ジェネラルセッション」に一本化し, 申し込まれた発表内容をもとに行事委員会が10程度のサブセッションを構成するなどの変更案が提案された。本件ついて早急に理事会へメールで説明を行い, 2022年早稲田大会のセッション募集を開始したい。

監事総評

・今回提案されているジュニア会員制度は中高生への地質学への興味の入り口, きっかけとなる大変重要な制度である。中高生向けへ地質学普及のために積極的に活用してほしい。

以上

2022年2月5日

一般社団法人日本地質学会
執行理事会

会長 (代表理事) 磯崎行雄
署名人 執行理事 中澤 努

2021年度第9回執行理事会議事録

日程: 2022年2月5日 (土) 13:00-17:00

【WEB会議】

出席: 磯崎・佐々木・平田・中澤・岡田・緒方・ウォリス・亀高・坂口・小宮・辻森・星・大藤・狩野・松田・高嶋, 岩部 (監事)

欠席: 矢部

事務局 澤木

*定足数 (過半数: 9) に対し, 16の出席

*前回議事録 (21-8回) 確認

報告事項

1. 全体的報告

・昨年「日本列島地質総覧」(加藤碩一ほか編集・執筆, 朝倉書店発行) の編集協力依頼を受け, 理事による原稿チェック等作業を行ったが, 内容・手続面で不備があったとして, 先方より協力依頼を取り下げの旨連絡があり, 承諾した。

2. 運営財政部会 (緒方・亀高)

1) 総務委員会

<共催・後援依頼, 他団体の募集, 連絡等>

・本年8/21-24開催予定の第9回国際地学教育会議 (GeoSciEd) (地質学会後援) は, 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮して, 開催日の1日短縮およびオンラインとの併用開催へと変更する旨連絡があ

った。

・本年7月開催予定の第17回 岩石-水相互作用国際会議組織委員会 (地質学会共催) について, 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮して会期を延期 (23年8月) する旨連絡があった。

・自然史学会連合総会(1/10開催, 学会代表委員: 兼子氏出席)。コロナの影響で21年度は旅費の執行がなく, 繰越金が多いため, 各学会の来年度分担金はない見込み。

・第13回 地理学連携機構, 地理関連学会連合, 人文・経済地理関連学会協議会合同総会 (3/18オンライン) 開催案内があった。都合により欠席となるため委任状提出予定。

・第19回 (令和4年度) 日本学術振興会賞候補者推薦依頼 (受付期間: 3/30-4/4, 学会締切: 3/18) 【→geo-flash, ニュース誌2月号掲載予定】

・2022年度国土地理協会学術研究助成募集 (受付期間: 4/1-15) 【→geo-flash, ニュース誌2月号掲載予定】

<会員>

1. 今月の入会者 (4名)

正 (院割) 会員 (3名): 盛合 秀 (21年度入会), 西 里紗 (22年度入会), 種子涼太 (22年度入会)

正 (学部割) 会員 (1名): 山縣元子 (※入会年度確認中)

2. 今月の退会者 (なし)

3. 今月の逝去者 (1名)

正会員 (1名): 清水 弘 (逝去日: 2022年1月17日)

4. 2022年1月末会員数

賛助: 27, 名誉: 39, 正会員: 3293 [内訳正3168, 院割117, 学部割8] 合計3359 (昨年度比-77)

<会計>

・学術著作権協会より, 2021年度著作権使用料等分配金 (179,100円) の入金があった。

<その他>

・会員クラウドシステムについて: データ移行作業が進行中。会員名簿に代わる機能として, 会員情報の検索機能等を整備する。画面仕様は現在作成中。閲覧可能な内容は, 基本的には冊子版に準拠する予定。

3. 広報部会 (坂口・小宮)

1) 広報委員会 (坂口)

・フォトコンテストの募集を1/31で締め切った。応募総数387点 (昨年度比-48)。2/28審査予定。

・学会HPで公開するNews誌PDF版のカラー差替えについて: カラー差し替えをする部分を予め決めておきPDF版について自動的にカラーに差し替える (数百円/件程度)。ただし元原稿が白黒の場合は, 白黒のままにする。

・ジオルジュ編集委員長は引き続き坂口理事が担当とする。

4. 学術研究部会 (辻森・ウォリス・星)

1) 行事委員会 (星)

- ・早稲田大会のトピックセッションを募集中(3月10日締切)。セッション変更に関するzoom説明会を開催する。2/10(木)12:30から。
- ・セッション変更については1月に理事会でメール協議し、大きな反対意見がなかったため前に進めるが、正式には4月理事会で承認を得ることにする。
- ・ジェネラルセッションの関連分野選択肢について行事委員会で検討した。次の11項目を挙げ、この中から最大3つ選択してもらうことにした: 1) 地域地質・層序・年代, 2) 岩石・鉱物・火山, 3) 地球化学, 4) 堆積地質, 5) 海洋地質, 6) 構造地質, 7) 第四紀地質・環境地質, 8) 古生物・古環境, 9) 応用地質・地質災害・技術, 10) 教育・研究史, 11) その他()。
- ・早稲田大会でシンポジウムを開催する場合は、4月理事会での紹介に間に合わせるため3月執行理事会でタイトルと概要を固める必要あり。
- ・5/29(2022JpGU会期中)にオンライン開催する「地質学露頭紹介 at JpGU2022」について、本会ウェブサイト以案内を出すとともに、発表募集を開始する。
- ・学術大会運営サポートシステム(Confit)の利用については、6月を目途に今大会での運用方法を定める必要がある(電子ポスターなど)。
- 2) 専門部会連絡委員会(辻森)
 - ・地質環境の長期安定性委員会と環境地質部会との合流(組織再編)は行わないこととなった。長期安定性委員会は4月解散を予定している。
- 3) 国際交流委員会(ウォリス)
 - ・IGC(2024韓国)巡検関連については、IUGS会長のLudden氏及びIGC会長のCheong氏に連絡し、今までの経緯について報告した。韓国側との継続審議を期待したい。
- 4) 地質標準化委員会(辻森)
 - 特になし
- 5) 選挙管理委員会(中澤)
 - ・1/14に代議員選挙および正副会長意向調査の開票を行った。続いて、理事選挙立候補を受付中(2/7締切)。2/10委員会開催予定。
- 5. 編集出版部会(大藤・狩野)
 - 1) 地質学雑誌編集委員会(大藤)
 - (1) 編集状況報告(2022年2月3日現在)
 - ・2022年投稿論文:11[内訳]論説2(和文2), 総説1(和文1), ノート1(和文1), フォト1(和文1), 巡検案内書4
 - 査読中:31, 受理済み:3
 - ・128巻:公開済み1, 入稿・校正中3
 - (2) その他
 - ・アウトリーチ巡検の巡検案内書は、一般市民(非専門家)対象の原稿のため、現行規則に沿った原稿作成では適さない部分がある(図表キャプションの英語表記必須)。例外的な措置を取るか、規則変更も含めて

- 対応を検討中。規則変更の場合は、4月理事会で提案する。
- ・プレプリントとして公開された原稿の投稿について、JSTより各学協会の対応(受付の可否、推奨、義務化等)を明示するよう求められている。現行規則ではプレプリントとして公開された原稿は地質学雑誌では受け取らないが、その利用に対しては専門分野によって温度差がある。国内外の動向も鑑み、会員に対する丁寧な説明と慎重な議論が必要と考える。
- 2) アイランドアーク編集委員会(狩野)
 - (1) 編集状況報告
 - ・編集状況の報告があった。2021年の投稿数が減っているので有効な対応が必要である。
 - 3) 企画出版委員会(小宮)
 - 特になし
 6. 社会貢献部会(松田・矢部・高嶋)
 - 1) 地学教育委員会(高嶋)
 - ・1/16(本試), 1/30(追試)の大学入学共通テストについて講評を行った。今年は地学基礎・地学共にやや易しくなっており、地学基礎は理科で最も高い平均点、地学は二番目に高い平均点となっている。地学基礎は受験者数の変動は特にないが、地学の受験者は右肩下がりになっている。講評
 - 2) 地質技術者教育委員会(佐々木)
 - (1) キャリアビジョン誌2021年版
 - ・1月に印刷・発送した。73社が参加し、フルカラー仕様の見ごたえのある冊子となった。学会HPにその内容(PDF)を掲載した。来年以降も企画を継続したい。
 - ・担当の坂口理事から既に連絡があったように、収入:2,070,000円, 支出:631,853円, 収支利益:1,438,147円であり、学会財政に大きく貢献している。
 - (2) 第2回JABEEシンポジウム
 - ・1/20からHPに講演概要(6名分)を掲載し、1月末から参加申し込みの受付を開始した。
 - ・2月上旬には関係各所(関係学協会, JABEE本体・JABEE地球・資源分野関係, 地質系大学関係者, 賛助会員, 業界研究サポート参加学生・企業, キャリアビジョン誌参加企業, 全地連の臨時かわら版の発行)に対する案内の発信を修了する予定である。
 - ・3/6(日)の当日に向け予定どおりの準備を進めている。
 - (3) JABEE地球・資源分野の運営体制の変更
 - ・2021年7月末に資源・素材学会から提案があり、12/11理事会で変更賛成承認を得た。
 - ・1/31分野運営委員会が開催され、提案を受けた構成3学会(地質学会, 応用地質学会, 地下水学会)から、提案に賛成する回答があったことが説明された。
 - ・これを受けて4月から新体制で運営できるように、運営委員会に準備会を設置して

- 「構成学会に委員などの推薦依頼」「構成学会から提案があった規則類の変更検討」「繰越金の新団体への移行などの会計的事務処理」「JABEEとの新規契約」などを検討することとなった。
- ・1/31付で構成学会に、新体制での委員2名以上と監事1名以内の推薦を2月末までにするようにとの依頼があった。担当する地質技術者教育委員会で人選をして回答する予定である。
- (4) 第7回地質技術者教育委員会
 - ・第2回JABEEシンポの準備状況の確認とJABEE分野新運営体制の委員などの人選のために、2月中旬に第7回委員会を開催する予定である。
 - (5) 本委員会のHP刷新
 - ・昨年11月に引き続き事務局にお願いして、HP内容を最新の情報に刷新した。
- 3) 生涯教育委員会(矢部)
 - 特になし
- 4) 地震火山地質こどもサマースクール(松田)
 - ・2023年度および2024年度以降の地震火山地質こどもサマースクール開催地を候補募集中(2/21締切)。学会HP,メルマガで会員に周知する。
- 5) 地質の日(矢部)
 - ・街中ジョ散歩については、オミクロン株の感染急拡大のため、1/15に予定していた下見を延期した。5月の実施および延期等について近日中に結論を出したい。
 - ・「土砂災害」と「火山」をテーマに2本の講演を実施すべく、講師候補を選定中。
- 7. その他執行理事会の下に設置される委員会
 - 1) 利益相反マネージメント委員会(中澤)
 - 特になし
 8. 理事会の下に設置される委員会
 - 1) ジオパーク支援委員会(委員長天野:代理平田)
 - ・1/28に第44回日本ジオパーク委員会が開催され、十勝岳, 五島列島(下五島エリア)が新規認定され、秩父など11の地域が再認定された。
 - 2) 地学オリンピック支援委員会(高嶋)
 - ・地学オリンピック二次予選が1/23(日)に全国の各会場で実施。受験者数は194名。本選は3/13-15につくば市で実施予定。
 - 3) 支部長連絡会議(平田)
 - 特になし
 - 4) 地質災害委員会(松田)
 - ・第13回防災学術連携シンポジウム(5/9オンラインorハイブリッド開催, テーマ「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」)について、各学会から1名発表可能。専門部会へ宛てて発表者を募る。
 - 5) 名誉会員推薦委員会(佐々木)
 - ・理事, 専門部会に候補者推薦を依頼し2/10がその締め切りである。
 - ・現状, 候補者の推薦があり, 2/10以降推薦委員会で内容を検討し, 3/19の執行理事会

で人選した候補者を報告したのち、4/9の理事会に諮って6/11の総会で承認を受ける予定である。

6) 各賞選考委員会 (中澤)

・選考作業中

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (委員長 堀 利栄)

特になし

8) 連携事業委員会 (中澤)

特になし

9. 研究委員会

1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長 吉田英一)

・4月理事会にて委員会の解散を予定している。

2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)

特になし

審議事項

1. 学会運営タスクフォース (学会活性化に関わる会費などの変更に関わる会員説明)

・6月総会審議までの期間、会員に変更内容を十分理解していただくため、あらかじめ学会HP (会員ページ) に提案内容の経緯や詳細を掲載することとした。佐々木副会長より、会員説明の内容について提案があり、承認した。

2. 山田科学振興財団2022年度研究援助候補者推薦について

・会員1名からの推薦希望があり、申請書類の内容を確認し、学会推薦することとした。

3. 法地質部会の新規立ち上げ

・新規専門部会として、法地質部会 (代表: 川村紀子) の立ち上げ提案があった。設立の趣旨や活動内容を鑑み、まず研究委員会として2年間活動し実績を積んだ後、部会化することを推奨する。4月理事会での研究委員会設置の提案をお願いすることとした。

4. 2021年度事業実績概要 (案)

・9月理事会での意見を踏まえて文言修正を行い、承認した。

5. 2022年度事業計画骨子 (案)

・9月理事会での意見を踏まえて文言修正を行い、承認した。

6. 新設賞の英語名称について

・磯崎会長よりいくつかの名称案が提示された。他学会の既存の名称なども参考にして検討する。継続審議。

7. その他

・高知コアセンターより、コアセンターへの機器移設 (広島大からSURIMP, 東工大からSQUID) に係る費用支出を高知大学へ要望するにあたり、学会から学長宛のサポートレターの依頼があり、出すことにした。

監事総評

岩部監事より下記コメントがあった。

・会費や会員種別の変更は、大変重要な提案

事項であるため、総会までの期間に会員への周知、説明をしっかりと行い、十分な理解を得た上で、総会での審議に臨んでいただきたい。

・専門部会の活動状況が会員にもっと見えるように、活動報告などをより積極的に行ってほしい。

・学術大会の開催方法について、コロナ禍後もオンラインを取り入れるなど、会員が参加しやすくなる工夫を検討していただきたい。

以上

2022年3月19日

一般社団法人日本地質学会
執行理事会

会長 (代表理事) 磯崎行雄
署名人 執行理事 中澤 努

2021年度第10回執行理事会議事録

日程: 2022年3月19日 (土) 13:00-18:00

【WEB会議】

出席: 磯崎・佐々木・中澤・岡田・緒方・ウォリス・亀高・坂口・小宮・辻森・星 (15:30より)・大藤・狩野・松田・高嶋, 矢部 (14:00より), 岩部 (監事)

欠席: 平田

事務局 澤木

*定足数 (過半数: 9) に対し, 17の出席

*前回議事録 (21-9回) 確認

報告事項

1. 全体的報告

・学術会議より、次期会員候補者の選考プロセスに関する意見聴取があった。学会から回答は行わなかった。

・2021年度地質系若手人材動向調査を実施中。地球科学系の大学教員の会員に向けてメールでの回答を依頼した (担当坂口, 4/15回答期日)。

・学会活性化に関わる会費等の変更について (佐々木): 変更内容については1月20日に理事会メンバーに配信した。現在までに意見はない。会員に対しては概要版を学会HPに2月15日から掲載、周知中。現在までに会員からの問い合わせはない。予定どおり1月20日配信内容を日付け変更して4月9日の理事会に諮る。

2. 運営財政部会 (緒方・亀高)

1) 総務委員会

<共催・後援依頼, 他団体の募集, 連絡等>

・令和4年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業助成金募集 (3/4締切) 【→geo-flash, ニュース誌2月号掲載済】

・地質情報展2022あいち (地質学会共催) の開催報告があった。2/19-20開催。来場者424名 (2/19: 146名, 2/20: 278名)。

・第36回GJSシンポジウム「3次元で解き明

かす東京都区部の地下地質」(地質学会後援)の事業終了報告があった。2月25日開催。参加者544名。

・2022年度朝永振一郎記念第17回「科学の芽」賞 (22/8/16-9/18募集) への後援依頼あり、承諾した。

・地盤技術フォーラム2022 (22/9/14-16東京ビックサイト) への協賛依頼があり、承諾した。

・日本学術会議公開シンポジウム「チバニアン、学術的意義とその社会的重要性」(5/24, ハイブリッド開催) への共催依頼があり、承認した。

・令和3年度東レ科学技術賞, 科学技術研究助成及び理科教育賞の決定について報告があった。(令和3年度学会推薦なし)。

<会員>

1. 今月の入会者(10名)

2021年度入会(2名)

正会員 (1名): 柄本泰浩

正 (院割) 会員 (1名): 大森 光

2022年度入会(8名)

正会員 (5名): 土屋輝真・大江 健・竹下光士・堀内美穂・川口允孝

正 (院割) 会員 (3名): 中村 拓・阿部日誉里・木村太星

2. 今月の退会者 (なし)

3. 今月の逝去者(2名)

名誉会員 (1名): 木崎甲子郎 (逝去日: 2022年2月26日)

正会員 (1名): 清水康守 (逝去日: 2022年2月26日)

4. 2022年2月末会員数

賛助: 27, 名誉: 38, 正会員: 3295 [正会員: 3169, 院割: 118, 学部割: 8], 合計3360 (昨年比-72)

<会計>

特になし

<その他>

・会員クラウドシステムが納品され、画面動作を確認, 調整中。3月末~4月上旬に会員への公開を予定している。

3. 広報部会 (坂口・小宮)

1) 広報委員会 (坂口)

・2/28フォトコンテスト審査会を開催し (zoom, 委員長 白尾元理), 入選 (12点), 佳作 (19点) が決定した。学会HPで作品画像公開予定。5/13-15東京パークスギャラリー (上野公園) で作品展示会を開催する。

・ロシアによるウクライナ攻撃に関して学術会議およびJpGUから声明が公表され, 各国学協会の状況が情報共有された。

4. 学術研究部会 (辻森・ウォリス・星)

1) 行事委員会 (星)

・2022早稲田大会トピックセッション: 14件が提案された。学術研究部会 (辻森・ウォリス・星) で検討し, すべて採択することにした。ジェネラルセッションも含めて, 早稲田大会では合計15セッションを設定する。

- ・2023京都大会 (2023/9/17-19, 大会委員長:山路 敦, 事務局:佐藤活志)は, 会場予約の申請等準備が進んでいる。
- ・地学教育委員会行事委員の交代 (田村糸子氏→矢島道子氏に交代)があった。暫定的な交代。できるだけ早く若手の委員を選出していただくよう地学教育委員会に依頼した。
- 2) 専門部会連絡委員会 (辻森)
 - ・4月理事会での報告のため, 各部会へ年次報告の提出を依頼中。
- 3) 国際交流委員会 (ウォリス)
 - ・IGC (2024韓国) 巡検関連について, IUGS Executive Committee Meeting (5/16-17, 於フランス, パリ)で西 弘嗣委員から状況説明がなされた。次回日韓交渉の日程を調整中。
- 4) 地質標準化委員会 (辻森)
 - ・地質図に関するJIS A 0204, JIS A 0205A)の改正とその経緯について, ニュース誌3月号に解説文を掲載した。
- 5) 選挙管理委員会 (中澤)
 - ・3/15に理事選挙開票を行った。得票数同数が3名いたため, 選挙規則第7条に則ってくじ引きを実施する。最終選挙は3/22に再度委員会を開催して確定する予定。
 - ・今回の選挙日程に合わせて, 選挙管理委員会補助要員 (事務局職員2名)の委嘱期間を3月末まで延長する。
- 5. 編集出版部会 (大藤・狩野)
 - 1) 地質学雑誌編集委員会 (大藤)
 - (1) 編集状況報告 (2022年3月15日現在)
 - ・2022年投稿論文:23 [内訳] 論説7 (和文7), 総説3 (和文3), ノート1 (和文1), レター3 (和文3), 報告1 (英文1), フォト1 (和文1), 巡検案内書7 (昨年比+18)
 - 査読中:32, 受理済み:5
 - ・128巻:公開済み4, 入稿・校正中1,
 - (2) その他
 - ・編集規則の改訂 (審議事項へ)
 - ・巡検案内書の公開方法について (審議事項へ)。
 - 2) アイランドアーク編集委員会(狩野)
 - (1) 編集状況報告
 - ・編集委員の原稿担当状況等が情報共有された。
 - ・IFが大幅に向上する見込みである。2021年IFは6月公表予定。
 - 3) 企画出版委員会 (小宮)
 - 特になし
 6. 社会貢献部会 (松田・矢部・高嶋)
 - 1) 地学教育委員会 (高嶋)
 - ・令和4年度大学入試共通テストの地学関連科目に関する意見書について (審議事項へ)
 - 2) 地質技術者教育委員会 (佐々木)
 - ・JABEEシンポジウム:オンラインシンポジウムが3月6日が開催され, 幅広い業種と年齢層の約150名が参加した。アンケートでの満足度も91%と好評であった。シンポ

- の内容はYouTubeで公開し広く視聴できるようにする (3/25公開済み)。
- ・JABEE地球・資源分野:新体制の発足に対して地質学会から5名を推薦した。新体制の規則案が提示され, 地質技術者教育委員会で精査して規則修正提案を行った。新体制は4月1日に発足する。
- ・土質・地質技術者生涯学習協議会 (GEO ネット): 定例会議がオンラインで3月15日に行われた。CPD登録改正等の説明があった。地質技術者教育委員会が会員向けに解説する。
- 3) 生涯教育委員会 (矢部)
 - ・文部科学省より令和4年度科学技術週間 (2022/4/18-24)への協力機関登録及び行事情報提供依頼があり, 機関登録を行い, 2022年「地質の日」関連行事 (フォトコン入選作品展、オンライン講演会)を登録した。
- 4) 地震火山地質こどもサマースクール (松田)
 - 特になし
- 5) 地質の日 (矢部)
 - ・オンライン一般講演会を5/8 (日)に実施する。テーマと講師は次の通り。斎藤 眞 理事:地質が身近にある社会を創る-新しい分野への活用に向けて-。鹿野和彦氏:海底火山の世界を探る「爆発的海底噴火とその噴出物」。
 - ・街中ジオ散歩の実行委員会を3/6 (日)にオンラインで実施した。新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着きつつあることから, 今後悪化しないことを前提に, 5/15 (日)に開催すべく準備を進めている。募集人数を例年よりも縮小 (15名), 時間も半日に短縮して, 国分寺駅周辺で実施する予定。4/3 (日)に幹事で下見を行う予定。
 - ・「地質の日」事業推進委員会の2022年ポータルサイトが公開となった。
- 7. その他執行政理事会の下に設置される委員会
 - 1) 利益相反マネージメント委員会 (中澤)
 - 特になし
- 8. 理事会の下に設置される委員会
 - 1) ジオパーク支援委員会 (委員長天野:代 理平田)
 - ・第2回JGASU会議の報告。3月15日 (火) 10時~11時30分 オンライン会議を行った。議題は次の通り。
 - ①ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請書の机上審査について:推薦希望が1件あり、レビューアの選定について関係学会から推薦する。
 - ②今後のJpGUセッションの参加形態について:2022年大会は特別措置で参加できるが、来年度以降についてはJpGU事務局と調整する。
 - ③IUGS GEOLOGICAL HERITAGE SITESの選定について:IUGSでは2022年に世界の地質遺産サイトを100カ所選定するとの報告があった。
 - 2) 地学オリンピック支援委員会 (高嶋)

- ・地学オリンピック本選が3月13日~15日, つくば市において対面方式で実施された。
- ・国際オリンピック参加者4名が選出された。国際大会はイタリアがホストとして8月にオンラインで開催される。
- 3) 支部長連絡会議 (平田)
 - 特になし
- 4) 地質災害委員会 (松田)
 - ・第13回防災学術連携シンポジウムが開催される。2022年5月9日 (月), テーマ:「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」。応用地質学会と地質学会の共同での発表が予定されている。タイトル「地形・地質から読み解く自然災害の変化と応用地質学的対応 (仮)」日本応用地質学会・日本地質学会 稲垣秀輝・高見智之
- 5) 名誉会員推薦委員会 (佐々木)
 - ・2022年2月11日に理事, 専門部会から推薦された候補者の推薦文を受領し, 13名の委員が検討を開始した。委員と候補者との利益相反関係を確認したのち, 3月1日, 14日に2回のオンライン会議を開催し, 委員会としての意見をまとめた。その結果, 3名の名誉会員候補者を選定したので理事会に推薦する。
 - ・推薦にかかる規則と選出の状況が詳細に説明された。最適な推薦人数, 推薦プール制度の詳細, 選出基準等検討すべき課題があげられた。
- 6) 各賞選考委員会 (中澤)
 - ・賞の定義や対象資格等をさらに明確化することや選考の流れ等, 今年度選考の過程での問題点があげられた。次期委員会への申し送り事項として再度整理して4月理事会で報告いただくこととした。問題点については, ワーキンググループを設置して検討していきたい。
- 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (委員長 堀 利栄)
 - ・早稲田大会でのダイバーシティロゴの導入について (→審議事項へ)
- 8) 連携事業委員会 (中澤)
 - 特になし
- 9. 研究委員会
 - 1) 地質環境長期安定性研究委員会 (委員長 吉田英一)
 - ・4月理事会にて委員会の解散を予定している。
 - 2) 南極地質研究委員会 (委員長 小山内康人)
 - 特になし

審議事項

1. 2022年早稲田大会関連
 - 1) シンポジウムが2件提案された:①現代 (人新世)における地質学:学問のあり方と社会への貢献 (執行政理事会提案), ②関東の地質:露頭から大深度地下まで (LOC提案)。4月理事会にて審議する。
 - 2) 講演会等 (大学開催分)の開催方法:7月初めまでに開催方法を決定する。開催方法ご

との詳細な実施方法と、それぞれの注意事項が提案された。現時点では、表彰式、シンポジウム、市民講演会、セッション（口頭発表）等は対面で行い、ポスター発表は昨年同様e-posterでの実施が望ましいと考える。対面での懇親会は行わない。e-posterは対面の口頭発表との同日開催が難しいので別日開催を検討する。昨年の大会の経験と社会状況を鑑みながら検討を進める。

3) 巡検実施に向けてのルール・依頼事項
感染予防を図りつつ巡検を実施するための手順が提案された。大枠について承認し、承認された内容をLOCに伝えることとした。一部については更に詰めていくこととした。

2. 大学入試センターへ令和4年度大学入試共通テストの地学関連科目の評価と地磁気に関する正確な記述についての意見書を送付することとした（3/29送付）。

3. 地質学雑誌投稿編集出版規則の改訂
プレプリントサーバー掲載済みの原稿の取り扱いと、二次情報の引用方法に関する記述を加える等規則改訂案が示された。4月理事会で提案予定。

4. 巡検案内書の公開方法について
アウトリーチ巡検等普及を目的とした一般市民（非専門家）対象の巡検案内書は、現行規則に沿った原稿作成では適さない場合がある（日本語のみの図表の方がわかりやすい等）が、規則に則っていない原稿は地質学雑誌への掲載が難しい。そのため付録（Appendix）を活用したり、学会HP上で原稿を公開することとした。J-STAGE公開分の案内書と合わせて学会HP上でVirtual Issueを構成するなどして、読者の利便性にも配慮する。

5. 法地質学研究委員会設立について
委員会設置のための趣意書案と委員会規則案が事前に提出された。内容を確認し、委員会英語名称を追加して、4月理事会での研究委員会設置の提案を行ってもらうこととした。

6. 国際基礎科学年（IYBSSD）への協力依頼

について

国連総会で、2022/6/30-2023/6/30を「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）」とすることが決議され、日本学術会議より関連学協会に対して、IYBSSDの趣旨を踏まえたシンポジウムやイベント開催等の協力依頼があった。地質学会としても趣旨に賛同し、積極的に取り組んでいくことが確認された。支部活動でも取り組んでもらうよう働きかける。

7. 研究奨励金支給規則案

竹内圭史会員からの寄付を原資とした「一般社団法人日本地質学会研究奨励金」制度設立の具体案が提案された。支給対象は、フィールドワークを主体とする調査研究を想定している。理事会でさらに議論し、細かな点を整え、最終的には9月理事会での承認を目指す。

8. 新設賞英語名称

賞の英語名称は規則で定められてはいないが、学会HPでの掲載等、対外的に示すことがあるので確認しておくことが望ましい。以下の通り新設賞の英語名称を定めた。功績賞：Outstanding Contribution Award/H. E.ナウマン賞：H. E. Naumann Award/地質学雑誌特別賞：JGSJ Short Publication Award/都城秋穂賞：Akiho Miyashiro Award/フィールドワーク賞：Fieldwork Award

9. 2021事業実績概要・2022事業計画骨子案
理事会での意見を踏まえて文言修正を行い、承認した。4月理事会で最終提案を行う。

10. 2022年早稲田大会でのダイバーシティロゴの導入について

ダイバーシティ&インクルージョン意識的啓発及びキャリア支援事業として、大会セッションでのEDI(Equality, Diversity and Inclusion)ロゴマークとECS(Early Career Scientists)ロゴマーク付与の実施が提案された。2021年大会での試行結果を元に委員会でも再考が行われている。4月理事会で正式に提

案していただくこととした。

11. 4月理事会審議事項の確認

- 1) 名誉会員候補者の選出
- 2) 各賞受賞者の決定
- 3) 地質環境の長期安定性研究委員会の解散及び法地質学研究委員会の設立
- 4) 地質学雑誌投稿編集出版規則の改正
- 5) 2022年東京・早稲田大会のセッション変更と開催形式
- 6) 学会活性化に関わる会費等の変更と関連規則（定款、運営規則）の改正
- 7) 表彰制度の見直しと関連規則（運営規則、各賞選考規則、各賞選考委員会規則）の改正
- 8) 研究奨励金支給規則案
- 9) 早稲田大会でのダイバーシティロゴ導入
- 10) 2021年度事業実施概要
- 11) 2022年度事業計画
- 12) 2021年度決算概算
- 13) 2022年度予算案
- 14) 総会議案の決定

監事総評

岩部監事より下記コメントがあった。

- ・2022年早稲田大会では2年ぶりの巡検実施を予定しており、安全な実施に向けてガイドラインの整備等更なる検討を進めていただきたい。
- ・総会、理事会等重要会議のリモート開催が、今後も法的に認められるかについて、念のため法人法等の確認をお願いしたい。

以上

2022年4月9日

一般社団法人日本地質学会

執行理事会

会長（代表理事）磯崎行雄

署名人 執行理事 中澤 努

訃報

本会の次の方々が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

名誉会員 木崎甲子郎（2月26日）
石田志朗（5月19日）

正会員 小島秀康（2021年8月12日）
榎原雄太郎（2021年12月1日）
大江 巖（2021年12月28日）
清水 弘（1月17日）
清水康守（2月26日）
小宮 学（4月29日）

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003年9月19日 日本地質学会総会制定

2009年12月5日 一般社団法人日本地質学会制定*

日本地質学会の会員は、科学的真理を明らかにする事を目的として、誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う。その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り、もって社会の発展と人類の福祉に貢献する。会員は、基本的人権を守り、良識かつ品位のある行動をとる。

1. 科学者としての倫理：会員は、専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る。研究と調査においては、法を遵守し、社会的良識に従って行動する。科学的事実に対しては常に謙虚、誠実でなくてはならない。研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し、公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する。

2. 知的交流の確保：会員は、国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに、研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める。

3. 人類と社会への責務：会員は、その専門知識と技術を適切に活用し、研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する。

日本地質学会

4. 地球環境への責務：会員は、地球システムの諸現象についての専門家として、地質災害の予知と防止、地球環境の将来予測、資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに、専門知識を活かして環境の保全と改善に努める。自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する。

5. 次世代への責務：会員は、地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展、次世代を支える人材の育成を図る。研究や調査の成果物、重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める。

*2009年12月5日法人理事会において、一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定。

